

# 東北支部年報

第 44 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: [aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp)

## 巻頭言

### 多様な東北の発掘に向けて

東北支部長 速水 清孝

「歴史研究の醍醐味は、時間の変化を描くこと」  
恩師の藤森照信先生の言葉です。その際、描くのは、できる限り広く建築の世界を見た上で、他の人が見えていない部分を、と。そう心がけてきたつもりでした。

昨年、建築史・意匠部会の先生方から、「東北建築賞(1980年設置)を、変化する時代の多様化に応じたものにすべきでは」とご提案いただきました。これまで触れる機会は頻繁にあったものの、そのとき初めて、足元にある、見ていなくてはいけない部分が全く見えていなかったことに気が付きました。迂闊でした。

「よい機会」と思い勉強してみて、当時の谷川正己支部長の発案で生まれたこと、今は審査の一過程にある作品発表会とは別の成り立ちをしていたこと、作品の顕彰になりがちな建築賞の中で、業績や若手の研究など、早くから作品以外も見る視野の広さを備えていたことなどなど。目から鱗が落ちることも多く、先進性に富んでいたことを知りました。40年以上何も変わらなかったわけではなく、しばしば手が加えられてもいました。

ただ、改めて考えてみると、かつては先進的でも、今でもその輝きを保っているとは言えない部分のあることが見えてきました。業績賞と研究奨励賞は、応募すらない状態が続き、作品賞は、震災の影響を考えても新築の作品が目

立ちます。持続可能な社会の実現に向けて、より多様な作品の応募があるべきでは？ 自薦を認めない部門があるのはどうなのでしょう？ 若手の顕彰は研究だけでよいのでしょうか？ などなど考え、役員の方々と検討を重ねて、今年、東北建築賞を刷新することにしました。

この2年、私にとっての課題は、支部の中での分野の垣根を払い、時代の多様化に応えることでした。それを昨年はシンポジウムなどの形で、今年東北建築賞の改正で試みたこととなります。これによって、この賞が目指した東北という地方色のさらなる発掘と、多様な作品や業績や活動が評価される土壌の形成に繋がることを期待します。

ただ、どんなに募集の要項や審査の規程を変えてみても、難しいのが発掘です。幸いこの賞は他薦が尊ばれてきたようです。奥ゆかしく、できると分かっても自薦は遠慮されるに違いない東北の方々の発掘を、支部会員の皆様にお願ひします。

最後に、今年のみちのくの風は、久し振りに対面での開催となります。成立要件が変わって以来、出席者の減った総会、総会後に行っていた東北建築賞の表彰式、従前からの講演会等々をまとめて、このみちのくの風で行うことにしました。多くのご参加を心待ちにしつつ、東北支部会員の皆様の、益々のご健勝をお祈りして巻頭言と致します。

## もくじ

□巻頭言	1
□企画記事	2
□2023年度司法支援建築会議東北支部活動報告	10
□2023年度支部研究補助費活動報告	10
□第44回東北建築賞作品賞選考報告	10
□第44回東北建築賞業績賞選考報告	13
□第33回東北建築作品発表会報告	14
□日本建築学会「作品選集2024」東北支部選考報告	14
□2023年度日本建築学会設計競技東北支部審査報告	14
□2023年度第86回東北支部研究報告会報告	15

□2023年度第9回東北支部建築デザイン発表賞選考報告	15
□2023年度日本建築学会東北支部総会報告	16
□研究部会活動報告	17
□支所だより	20
□支部役員会から	22
□支部役員名簿	24
□2023年度事業報告	25
□2024年度事業計画(案)	27
□法人・賛助会員名簿	29

## (1) 「みちのくの風 2023 青森」開催報告

前常議員 恒松 良純

令和5年度のみちのくの風2023青森は、昨年度に引き続きオンライン形式で開催した。二日間の日程で、一日目に特別企画事業を3企画、二日目は研究発表会とデザイン発表会を実施した。特別企画事業（構造分野）として、西澤英和氏（関西大学名誉教授）を講師に迎えて「歴史的な建物とまちなみの保全を考える」を実施した。特別企画事業（計画分野）では、小野田泰明氏（東北大学教授・前日本建築学会副会長・前建築計画委員会委員長）による「20世紀の枠組で21世紀の希望は実装可能か?」をテーマに実施した。オンライン見学会は、東北建築賞を受賞した八戸市美術館を設計者の一人浅子佳英氏と館長の佐藤慎也氏による企画から現在の運営について事前撮影した映像を用いながら解説を後半に小野田泰明氏を交えて議論した。研究発表会（3会場）とデザイン発表（1会場）については、論文発表後の交流の場を意識してディスカッションの時間を設け議論を深める方法を提案して実施した。

### 3) 特別企画事業

#### 特別企画事業 1（招待講演構造系）

##### 「歴史的な建物とまちなみの保全を考える」

講師：西澤英和氏（関西大学名誉教授）

大野晋准教授（東北大学）の趣旨説明のあと、西澤名誉教授は、「近年歴史尊重の念が薄く、伝統的文化が損なわれている」と指摘。発端は、阪神大震災での甚大な木造被害は、伝統木造の脆弱性に起因するとの構造学者の誤った主張に起因する。神戸は大空襲で焦土と化し、戦後の建築基準法に基づいて再建された典型的な戦災復興都市。このため伝統木造は存在しなかったとの歴史的な事実を提起。大被害の責任を伝統建築に転嫁したことが 昨今の伝統軽視の風潮を助長した。

伝統建築は激震に耐えないのか?を明確に示した実験として、木造家屋の振動倒壊実験の動画を示した。一方は長期優良住宅を強化した木造住宅、もう一つは同じ外観形状の伝統木造住宅。これらを振動台上に構築して、阪神大震災級の激震を加えたところ、伝統建築は激震に耐えたのに対し、長期優良住宅は木端微塵に砕け散った。屋根が軽量で柱の細い戦後木造は基礎を固定することで暴風被害に備えるが、このために建物は激震時の激しい揺れに追従できず大規模崩壊を招いたと考えられる。足元を固定しない伝統木造は、剛体回転・スピン・滑動・跳躍が可能のため、地震力が遮断され、激震に耐えると考えられる。

質疑応答では伝統木造は足元を固めないことが重要であり、耐震補強は最低限にすべきで、更に震災後の公費解体のほか、住まいについて殆ど教わっていないことが伝統木

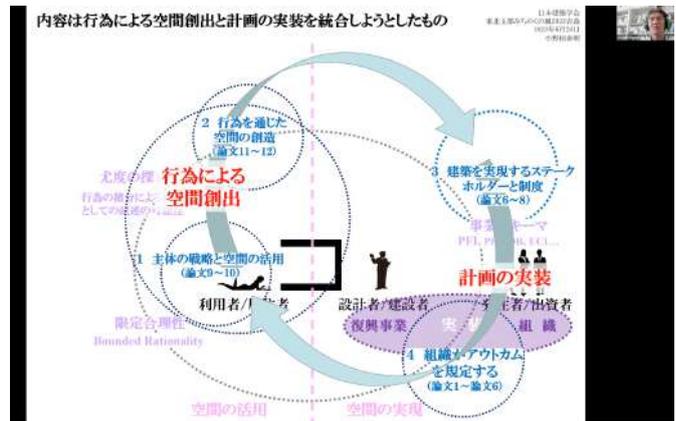
造の過剰解体の一因と指摘された。これらの議論を通して、「日本人はもっと地域の歴史を知り、伝統建築の技術を守り、先人を敬うことにより、自分たちが地域を守るという気概を持つべきだ」との強いメッセージが伝えられた。

〔西澤英和／関西大学名誉教授〕

#### 特別企画事業 2（招待講演計画系）

##### 「20 世紀の枠組で 21 世紀の希望は実装可能か?」

講師：小野田泰明氏（東北大学大学院教授）



自身のこれまでの研究を総括する小野田氏

今回の特別企画では、2022 年度日本建築学会賞（論文）を受賞された小野田泰明氏にご講演いただいた。講演では、受賞の対象となったこれまでの研究や実践の背景に横たわる問題意識の所在を明らかにしつつ、我々が将来に向けて取り組むべき課題について示された。六部で構成されたその内容を具体的にみてもみると、90 年代以降の国際的な競争力の低下をもたらした硬直的な日本社会の仕組みが、建築の世界にも内在していることや、同様な問題をかかえていたイギリスでは教育の仕組みを変えることでそこからの脱却を図ったことが示された上（第一部）で、日本でも戦後建築計画分野が専心して新しい学校計画に取り組んできたが、生徒の行動と評価の調査からは、計画者の想定を超えた空間との相互的な関係性が見えてきたこと（第二部）や、公共建築や復興事業の現場での実践と研究から、浮き彫りになった日本の組織や発注システムの課題（第三部から第五部）が述べられた。最後の第六部ではこのような閉塞的な状況を打破する取り組みとして、長野県で進められている先進的な教育事業の紹介と、空間認知研究による新しい建築空間創出の可能性が述べられた。講演後には、参加者からとの質疑応答の時間が設けられ、通常論文には書ききれない背景的な思想が示されたことに対するコメントや、普段アクセスできない調査対象へのアクセスの方法、日本が未だ維持している良さを活かしつつグローバルに展開するために必要なこととは何かといった質問が交わされ、盛況のうちに終了した。

〔佃 悠／東北大学〕

#### 特別企画事業 3（オンライン見学会）

##### 「地方都市における文化施設の実践～八戸市美術館の取り組み～」

2021 年 11 月に新美術館として再開館した八戸市美術館で

ある。東北建築賞をはじめ高い評価を得ている。見学会の実施方法としては、オンラインによる見学と施設の運営についての解説から施設と地域、設計者との関わりについてディスカッションを行った。見学会については事務局によって事前に撮影した映像を用いた。

見学会については、設計者のお一人で、建築家・浅子佳英氏（PRINT&BUILD）に施設の紹介していただいた。美術館の各居室の特徴と施設全体をエントランスにつながる明るく開放的なジャイアントルームを中心とした空間の連続性について、建築の技術的な視点からの考慮など話題を盛り込んだ解説であった。



ジャイアントルームの様子

さらに、八戸市美術館館長の佐藤慎也（日本大学教授）から、設計者選定に関する新美術館の開館までの過程と現在の運営状況などについて解説していただいた。旧八戸市美術館の所蔵から現八戸市美術館の整備に関する基本構想から、美術館と地域の連携、設計者の選定や設計者と地域の協働、竣工後の施設運営や市民の評価など多岐にわたる取り組みについて紹介があった。また、美術館の課題や今後のあり方などについて示唆をいただく内容であった。

直前の企画事業の講師である小野田泰明氏にも参加いただきから3者による討論を行った。はじめに事前に施設を見学している小野田氏より八戸市美術館の魅力についてコメントがあった。複数の聴講者より、設計者選定や竣工後の建築家と施設運営の関わりなど質問やコメントがあった。美術館だけではなく地域における公共施設のあり方について等、活発な議論が行われた。

最後に、企画展の開催中にも関わらず本企画のために撮影を許可いただいた美術館へ感謝を申し上げます。

[恒松良純／東北学院大学]

## (2) 災害委員会市民企画報告

### 1) 東日本大震災復興シンポジウム「みやぎボイス 2023～震災復興を100年のパースペクティブで考える～」

櫻井 一弥

#### ○企画概要

開催日：2023年9月2日（土）11：00～18：30

会場：せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア + Zoom 会議

対象：一般市民、東日本大震災の復興に関わる地域住民、行政担当者、大学関係者等

参加者：151名（うち、53名はZoomによるオンライン参加）

#### ○背景・目的

「みやぎボイス」は、年に1回、東日本大震災からの復興に関わる様々な立場の方々が一堂に会して議論することで、震災復興の現在を確認し、地域の課題を共有する場として機能してきた。今回は、「震災復興を100年のパースペクティブで考える」をテーマに議論を進めた。奇しくも関東大震災から100年となる年であることを意識し、東日本大震災での経験との比較や、より長期的かつ多角的な視点から議論することとした。

#### ○内容と成果

「ラウンドテーブル」という議論形式により、立場を超えたフラットな関係性のもと、登壇者も聴衆も一体となった課題の共有と気づきを与える場として実施してきた。前回までのノウハウが蓄積されてきたことから、遠隔地からの参加者については、zoomを用いたリモート参加とした。各テーブルのテーマは以下の通りである。

前半テーブルA 「100年のパースペクティブでポスト近代復興とは何かを考える」

前半テーブルB 「関東大震災の経験を踏まえて東日本大震災の100年を考える」

前半テーブルC 「みやぎボイスを100年のパースペクティブで考える」

後半テーブルD 「100年のパースペクティブで20年後の住宅復興を考える」

後半テーブルE 「災害と人権の100年」

後半テーブルF 「助け合える関係性のパースペクティブ～震災を経験してひとと人、ひととまちの関わりはどのように変化してきたか～」

対面とリモートを併用して復興とまちづくりに精力的に関わられている各分野の方々に参集いただき、多様な意見交換と示唆に富む知見の共有ができた。

### 2) 日本建築学会東北支部「津波のひなん方法を考える」シンポジウム（津波に強い建築を活用した津波減災を考える）

日本建築学会東北支部  
「津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会」  
委員長 田中礼治（東北工業大学名誉教授）  
副委員長 船木尚己（東北工業大学教授）

## ○企画概要

開催日：2024年3月9日（土）13：30～15：00

会場：せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

参加者：46名

## ○シンポジウムの発表演題

### ①齋藤徳美氏【岩手大学・名誉教授】

テーマ「日本海溝北部の地震での津波避難～久慈市が抱える課題～」

### ②小関勝男氏【小関構造設計室（岩手県）・主宰】

テーマ「あの日、長い日」

### ③高校生の意見【仙台西高等学校】

テーマ「ひなんする判断基準についての考察」

### ④田中礼治氏【東北工業大学・名誉教授】

テーマ「垂直ひなんを考える」

### ⑤船木尚己氏【東北工業大学・教授】

テーマ「津波ひなんの伝承について考える」

## ○シンポジウム概要報告

今年の正月は地震で明けた。大きな地震と津波が石川県で発生した。テレビを見ていたら、アナウンサーが、「今すぐ避難！今すぐ避難！東日本大震災を思い出して下さい！」と緊迫した様子で、何度も警鐘を鳴らしていた。

現在、日本建築学会東北支部でちょうど、津波減災研究委員会を設置し津波のひなんに関して検討している「津波とひなん」に関して皆で考えてみるのも大切なことだと思っている。

今回のシンポジウムでは日本の将来を考えて、高校生、大学生などの若い人にも多数参加していただいた。老若男女で、これからの日本の将来を考えるよい機会であったと考えている。

各発表終了後、各方面から津波とひなんの関係について会場の皆さんと話をしてみた結果、次のような3項目のいまだ十分に議論されないまま残されていることが判った。

①津波の時のひなん方法についてはまだ十分に議論されていないこともあるのではないかという意見もあった。

②津波のひなん方法として、垂直ひなんが有効だと考えられるが、まだ十分に議論されていない部分もあるのではないかという意見もあった。

③日本の学校建築では、一文字型のものが多いが、津波のひなんを考えた場合には、凸型の学校の方が有効であるという意見も多かった。

以上のような意見から考えると、津波ひなんの関係については今後とも検討を続けて行くのがよいと考えられるので、シンポジウムも今年度中にあと2回ほどおこなうことを考えている。皆さんと一緒に「津波ひなん」について検討してまいりたいと考えている。

## (3) 2023年度親と子の都市と建築講座

### 1) 環境工学部会主催 宮城会場

“組手什（くでじゅう）”で小さな家具づくり

菅原 正則

日時：2024年2月23日、10:00～12:00

場所：宮城教育大学 技術棟 木工室

講師：菅原正則（宮城教育大学 教授）

参加者：16名（小学生4名、中学生3名、高校生1名、保護者8名）

### 趣旨（案内チラシより）：

組手什（くでじゅう）とは、釘やネジを一切使用せずに、自分の手ではめ込むだけで組み立てることができる木製家具です。間伐材利用と木材へ親しむ機会づくりを目的に、愛知県や鳥取県の森林組合により開発・商品化されました。2010年のCOP10（生物多様性条約締約国会議・愛知県で開催）で発表されて以来、2011年の東日本大震災被災地の避難所などで活用されています。2021年に放送されたNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の中で、学校の本棚や主人公・百音の部屋の収納として使われ、注目されました。この講座では、組手什を加工し、「おもちゃ棚」または「卓上ブックスタンド」の製作を通して、木材によるものづくりを楽しみます。※製作したものは持ち帰ることができます。

### 内容：

本講座は、日本の伝統的な建築材料である木材の加工体験を通じて、木材の風合いや性質を感じ、地球環境問題の中で木材を使用する意味を考えてもらうことを目的としている。企画の準備が遅れた関係で、開催日が年度末ぎりぎりの2月下旬になったが、参加申し込みは、募集開始から1週間余りで定員の10組に達した。開催日間近になって、インフルエンザ等の罹患により、3家族が欠席した。

なお、参加申し込みから開催日までの間に、参加者には個別に連絡を取って次のことを確認している。①製作物の種類、②事故を未然に防止するための必要な配慮、③服装、④音への過敏度合い、⑤来学の方法、⑥来場までの誘導、⑦開催時刻までに到着しない場合の電話連絡、⑧記録・報告のための写真撮影。

### 1) 開会

講師および学生アシスタントの紹介に続き、講座の開催趣旨や注意事項が説明された。

### 2) 組手什や木材利用の解説

ここでは、組手什の紹介として、和の伝統技法を踏襲したものであり組み立てやすさがあること、10cm単位（モジュール）で設計できること、70cmスパンでも3枚で人の体重を支えられるほど強度

があること、間伐材利用していることで CO<sub>2</sub> 固定など環境保護になること、ただし木材を運搬する際の CO<sub>2</sub> 排出（ウッドマイレージ）も生ずること、などを説明した。日常的にはものづくりの学習に用いられることが多いが、実用性も充分にあるので、東日本大震災のときには避難所や仮設住宅で使用された実績があり、防災教育への利用も期待できる。

### 3) 組手仕の加工と製作

作業に入る前に、「おもちゃ棚」と「卓上ブックスタンド」の材料を配布し、パーツにするための組手仕の切断箇所を図で示した。これを参照して、切断箇所に曲尺と鉛筆で目印を付けさせた。次に、目印の部分に治具を当て、のこぎりで切断した。工作作業のときには作業用手袋を装着させた。

切断されたパーツは、組み立て前に机の上に並べ、どのパーツがどの位置に使われるかイメージできるようにした。その中で、縦に使われるパーツは、講師または学生アシスタントが、電動糸鋸で足の長さを切り揃えた。この作業を待つ間、参加者にはパーツを紙ヤスリで磨かせた。

足の長さが切り揃えられ、パーツの準備が整った参加者は、組み立て作業に進んだ。接合の際には、その箇所に板を当てて、その上からプラスチックのトンカチで叩くようにした。接合箇所によっては、木材の乾燥により緩くなっていたので、木工用ボンドで接着することもあった。

作業の早い参加者は、終了予定時刻より 30 分以上まえに作業を終えた。時間を持って余しているときには、事前に配布した組手仕の設計シートで、次に製作してみたいものを考えさせた。参加者によっては、紙ヤスリで念入りに磨いたり、家具のがたつきを無くすために足の長さの微調整にこだわったりする様子が見られた。



工作作業の様子（上から、目印の記入、切断、組み立て）

#### 参加者の感想：

講座終了時に、参加家族 7 組にアンケートを実施した。  
○講座の内容はいかがでしたか？ 感じたものに○をつけて下さい。

回答は、すべて「大変満足」であった。今回のように作業中心の講座は、満足度が高いと言える。

○よかった点、わかった点をおしえて下さい。

回答には「最初に丁寧な説明があり、作る意義が分かりやすかった」「子どもが自分で道具をつかいながら、考えながら作ることができたのが良かった」「ただの製作ではなく、間伐材やウッドマイレージについても学ぶことができた」など、講座の趣旨・意義に触れたものが複数見られた。わかる点として挙げられた回答であっても、「ぐらぐらしないようにするのがむずかしかった」のように、製作へのこだわりを感じられる内容であった。

○今後、今回のテーマのような講座があれば参加してみたいと思いますか？

回答は、すべて「参加する」であった。

○他にどのようなテーマの講座があれば参加したいと思えますか？

回答には「ツリーハウス作り」「木のおもちゃ、ギアなど」のように派生的なテーマを提案するものもあったが、「マンガ棚作り、もっと大作にチャレンジしたい」と今回の講座の延長線上のテーマも挙げられた。さらには「木材の種類による性質の違いを学ぶ」「実際の建築現場を見学したい。ビルのくたい工事、橋の工事」のように、建築分野への興味を挙げたものも見られた。

○そのほかに、ご意見・ご感想をおしえて下さい。

回答には「身長が低いのでのこぎりを台上で使うのが難しかった。他の参加者の方が見かねて椅子の上に乗るよう指示してくれました」「木工工作大好きです。安全に指導してもらえてよかった」などが寄せられ、好評であった。「木の工作、すごく楽しかったです。このような講座をつくっていただきありがとうございます」との感謝も寄せられた。



参加者の皆さんと作品（左端は、菅原講師）

今回のテーマで講座を開催するのは初めてであったが、安全に楽しく、意義深く、そして予定時間内で実施できて、安心したというのが率直な感想である。その準備において、作業性や安全確保について多くの有益なご意見とご協力を賜りました、荒明聡先生（宮城教育大学技術棟 技術職員／任意団体 NPO みや木づかい代表）には、心より感謝申し上げます。

## 2) 環境工学部会主催 秋田会場 「スマハキット」でスマートハウスの実力を体感しよう

菅原正則、長谷川兼一、西川竜二

日時：2023年7月30日、10:00～12:00

場所：秋田県立大学本荘キャンパス 大学院棟5階D501（デザインシミュレーション室）

講師：菅原正則（宮城教育大学 教授）

長谷川兼一（秋田県立大学 教授）

西川竜二（秋田大学 准教授）

司会：長谷川兼一（前出）

参加者：19名（小学1年生～中学2年生が9名、保護者・付き添い10名）

趣旨（案内チラシより）：

これまで身近に使われてきたモノに、センサーやデータ通信・処理の技術を加えて「スマートに（賢く）」すると、便利で無駄のない動きをするようになります。「スマートハウス」は、主に電気エネルギーを無駄なく使用するしくみを持ち、自然エネルギー利用に役立ちます。それは地球環境を守るだけでなく、災害などでライフラインが途切れても生活を支える役割を果たします。この講座では、住まいをスマートにする意味について学び、その初歩的なしくみを電子部品のキットで組み立てて確かめます。

内容：

本講座は、秋田県立大学システム科学技術学部 創造工房委員会の主催による第16回夏休み科学教室「創造学習」／「おうちで創造学習」へ出展された17講座の1つとして実施された。コロナ禍から引き続き2講座がオンライン（Zoom）で開催されたが、15講座が対面で実施された。参加申し込み数は、定員いっぱいの小中学生10名であったが、当日1名が欠席した。

（1）開会

講座の開催趣旨や注意事項が説明された。記録・報告のための写真撮影について確認したところ、参加者全員が可能であった。

（2）スマートハウスって何？

ここでは、スマートハウスが1980年代のアメリカにおいて構想された経緯や、現代の自然エネルギー利用のために普及する意義、そしてHEMSを中心としたその仕組みについて説明した。

（3）「スマハキット」の組み立て（写真1）

「スマハキット」は、スマートハウスの仕組みを安価な電子回路で簡易に再現した建物模型教材であり、LEDとCds照度センサーを組み込んだ建物模型、センサーボード（ちっちゃいものくらぶ NanoBoard AG）、ノートパソコンで構成されている。LEDへの電源はリレー回路を通じて供給さ

れ、Scratchの自作プログラム（ON/OFFモード、手動可変モード、HEMSモードの切り替えと、計測機能を持つ）により出力制御が行われる。コンデンサによる蓄電回路を加えることもできる。参加者は、Scratchの画面上で「スマハキット」を操作し、測定値をモニターできる。また、電源と照明用LED制御の組み合わせについて、①電池+ON/OFF、②電池+可変調光、③手回し発電（コンデンサなし）+可変調光、④手回し発電（コンデンサあり）+可変調光、⑤手回し発電（コンデンサあり）+HEMS、の5条件について実験を行うことを説明した。



写真1 「スマハキット」を組み立てている様子

#### （4）スマートハウスの実力を体感しよう（写真2）

実験の条件①では、照明ONとOFFのときの明るさの範囲から、目標の明るさを設定した。そして、条件②～⑤のそれぞれで、練習と1分チャレンジ（1分間に目標の明るさを維持・調整できるかを競う）を行い、その結果を専用の用紙に記録させた。条件③～⑤で使用する手回し発電機は、自然エネルギーを模したものであり、参加者は、不規則な発電量の変化に対して実験条件ごとに目標達成の難しさが異なることから、蓄電（コンデンサ）やHEMSを用いた際の効果を体感した。

最後に、条件⑤に加えて会場の照明を断続的に切り、環境光の変化を与えた1分チャレンジを行い、成績上位3名に記念品を贈呈した。講師3名から講評を述べて、閉会した。



写真2 1分チャレンジで手回し発電機を操作する様子

参加者の感想：

講座終了時に、参加者9名にアンケートを実施した。  
○講座の内容はいかがでしたか？ 感じたものに○をつけて下さい。

回答は、大変満足7、満足2、やや不満0、不満0であった。十分に満足して頂けたようである。

○よかった点、わかった点をおしえて下さい。

回答には「発電と蓄電、使い方が良く分かった。ゲーム要素もあって楽しかった」「工作、仕組みが分かったこと、この後の理科の学習まで覚えておきたい」とスマートハウスへの興味・理解が進んだと思われるものがあった一方で、「最初の説明は小学低～中学年には難しいようだった」「内容が少し難しく、回すのが疲れました」と、改善を求める指摘もあった。

○今後、今回のテーマのような講座があれば参加してみたいと思いますか？

回答は、参加する7、参加しない2であった。「参加しない」の回答の理由は不明である。

○他にどのようなテーマの講座があれば参加したいと思いますか？

回答には「ロボット作り」「耐震の実験」のように広く科学的な内容を求めるものがあったが、「もう少し電気のこと分かるようになったら、全く同じ講座に参加したいです」と、この講座のテーマそのものへの関心を示した回答もあった。「何か持ち帰っても遊べるものがあれば・・・」という回答もあったが、この講座で対応するのは難しいと思われる。

○そのほかに、ご意見・ご感想をおしえて下さい。

回答は1件だけあり、「予想していたよりも楽しく、学びがあってとても良かったです」と前向きな感想が寄せられた。実施者冥利である。



写真3 参加者の皆さんと講師

秋田県立大学の夏休み科学教室「創造学習」に出展を始めてから4年目にして初めて、今年度は対面での講座開催が実現した。スマートハウス（またはスマートホーム）という言葉もたまにメディアで目にするこの頃であるが、普及にはまだ遠いと感じられる。この講座が、自然エネルギー利用への理解の一助となれば幸いである。

### 3) 福島支所主催 ～やさしい建築 折り紙建築ワークショップ～活動報告

福島支所長 星 剛

#### 開催趣旨

1枚の紙に切り込みを入れ、折り込むことで立体化する「折り紙建築」の制作を通じ、建築のデザイン等を楽しく知り、身近に感じてもらうことで、建築への興味の醸成を図ることを目的として開催した。

#### 開催概要

日時：令和5年7月30日（日）13:00～15:00

場所：福島県教育会館

講師：五十嵐 暁浩 氏

参加者：6組12名の親子

（小学生6名、大人6名）

スタッフ：5名

#### ワークショップ

##### (1) はじめに

1枚の紙が飛び出す仕組みについて、簡単な長方形のモデルを用い、どのように折れば立体的に飛び出すのかを参加者に考えさせながら学習した。

また、ティッシュボックスなどの身近な箱を用いて長方形断面が折り畳めること及び立体化する仕組みを分かりやすく解説した。



折り紙の仕組みを説明



身近な箱により折り畳める仕組みを説明

##### (2) 簡単なモデルの折り紙建築の制作

折り紙建築の仕組みを理解したところで、手始めに簡単なモデルの折り紙建築を制作した。

1枚の紙に印刷された線に沿って定規とカッターにより切り込みを入れ、山折り、谷折りを適切に使い分けて2次元の紙を3次元の建築に仕上げていった。

簡単な作品であったが、まるで飛び出す絵本のように立体的になる折り紙建築を初めて完成させたことから、参加者から喜びの声があがった。



ワークショップの様子

##### (3) 福島県内の建築物をモデルにした折り紙建築の制作

本講座のため、講師の五十嵐氏に福島県内に実在している福島県教育会館、郡山市立美術館及びビッグパレットふくしまの3点をモデルにしたオリジナル作品を用意していただいた。

本講座のメインイベントとして、最後に3作品から1点を参加者に選んでもらい、折り紙建築の制作に取り組んだ。

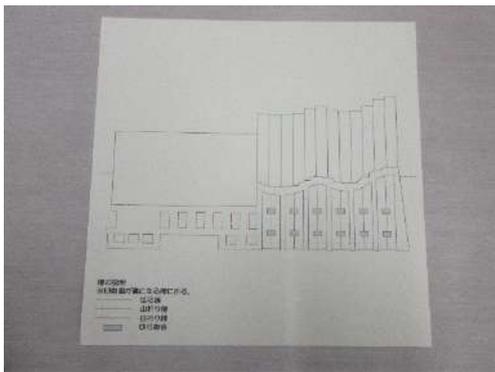
実際に訪れたことのある建築物の折り紙建築を完成させることで「この屋根はこういう形だったんだ。」などの新たな発見を得るなど、建築デザインに触れながら完成を喜んでいった。

また、別の建築をモデルにした折り紙建築を参加者同士で見せ合い、それぞれの作品の仕上がりを競い合うとともに、完成した喜びを共有していた。

なお、講座内で制作しなかった折り紙建築についてはお土産とし、自宅でも楽しんでもらうこととした。



ワークショップの様子



会場となった福島県教育会館の折り紙建築（制作前）



会場となった福島県教育会館の折り紙建築（完成後）

## (4) 2023 年度東北支部男女共同参画事業 活動報告

常議員 市岡 綾子

「わたしと建築 一愛される建築を目指して」講演会

日時：2024年3月21日（水）16:00～17:30

実施形態：Zoom によるオンライン

主催：日本建築学会東北支部

講師：大西麻貴氏（大西麻貴＋百田有希/o+h 共同主宰、  
横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授）

女子学生や建築業界における若手女性建築技術者のロールモデルとなる女性建築家による講演会を企画し、今年度建築学会賞(作品)を受賞された大西麻貴氏に講師を依頼、「わたしと建築一愛される建築を目指して」と題する講演会をオンラインにて開催した。当日は全国から127名が参加した。

速水東北支部長より挨拶、常議員の市岡より本イベントの主旨を説明した後、大西麻貴氏にご講演いただいた。建築との出会いから学生時代の話、比較的キャリアの初期にあたるプロジェクトや作品の紹介を通じて、設計構想の源や設計活動プロセスを中心にお話しいただいた。東日本大震災後に設計者のキャリアが始まったことで、被災地に通い多くの人の話を聞きながら一緒に新しい空間を作り上げる経験が今に活かしていることを話され、特に学生や若手設計職の聴講者を意識した、ご自身の作品における具体的なエピソードに基づきロールモデルとなる情報発信を丁寧にお話しいただき、愛される建築を目指す考え方が聴講者と共有されたと思われる。

質疑応答では、申込時に受けていた質問のうち、女子学生から寄せられていた内容を主に伺い、学生時代に直接指導を受けた伊東豊雄氏や竹山聖氏の影響が大きいことや、世代の異なる方とのコミュニケーションにおいては、若い時には苦労された経験もあったものの、パートナーのコミュニケーション力の影響を受け、バランスの良い関係性を構築している状況をお話された。

終了後に実施したアンケートでは、全体的に満足度は高く、何よりも大西麻貴氏の人柄が素晴らしいとの意見が多数聞かれた。「大西麻貴さんという特別なキャラクターがあつてこそ、男女の障壁を感じにくいのだと暗に知ることができた」、「女性の活躍のロールモデルとしてよい事例を示している」などのコメントをいただいた。また、活躍する女性の情報を男性に発信する場の必要性に関する意見も挙げられた。「今後取り上げてほしいテーマ」には、意匠設計以外の職種の方の講演や子育て期での働き方などが挙がり、今後の参考としたい。

### おわりに

参加者は、建築物の用途、利用人数による規模の違いや立地条件等、様々な条件から形づくられる建築物について、実際に訪れたことのある県内の建築物を思い浮かべながら折り紙建築を制作することで、建築デザインに親しみながら触れることができた。

本企画は当支所では初めての試みであったが、親子とも楽しく建築に親しむことができた。

今後も参加者が楽しく建築を学んでいただけるよう様々な企画に挑戦していきたい。

最後に、本講座の開催に当たり、御協力いただいた関係団体及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 2023 年度支部研究補助費活動報告

### 「郊外住宅地の新陳代謝に関する実態調査」

地方計画部会 部会長 小地沢将之

人口減少や高齢化の進行を受け、東北地方の郊外住宅地でも空き家化・空き地化が進行している。地区計画の制限によって地区一帯の資産価値を増大することが可能だといわれてきたが、高齢化に伴ってか、整備計画に規定された垣の維持が行われないなど、課題が散見されている。また、地区計画の制限が行われていない地区では、敷地の分割による新築が増加し、不動産市場としてはむしろ賑わっているように見える。このように郊外住宅地の新陳代謝の多寡は、都市計画上の制限に由来する可能性もあるが、このことについて十分な調査は行われていない。そこで本研究では、地区計画の制限の有無に着目し、郊外住宅地の新陳代謝の実態について、3件の調査を行った。

地区計画の制限がある住宅地における店舗併用住宅の推移を把握する調査では、40年あまりで多くの店舗の入れ替わりがあっただけでなく、店舗部分を他者に貸し出した上、居住実態がないケースも散見され、地区計画の定めを逸脱した運用が常態化していることが明らかになった。

地区計画の制限がない住宅地における高齢者の住替えニーズを把握する調査では、女性に比べて男性のほうが在宅で介護を受けるニーズが高く、このことが高齢期の住替えの障壁になっている可能性が窺えた。また最低敷地面積の制限がないため、売却後の土地は元々の宅地を2分割して分譲されることが一般化していることも把握できた。

震災復興によって整備された住宅地の空き地の要因を把握する調査では、土地区画整理事業が完了し、地区一帯で津波浸水リスクには大きな差がみられなくとも、海岸線から離れた地区ほど土地の売買が進められていることが明らかになった。

これらの成果は、2024年3月に報告会を開催して報告した。また引き続き、このたびの対象地区の今後の推移について調査を継続する予定である。

## 第44回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 坂口 大洋

### 1. 応募作品

・小規模建築物部門	8 作品
・一般建築物部門	20 作品
・その他の建築物部門	1 作品
計	29 作品

### 2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議



写真1 講演会の様子 (Zoom画面より)

## 2023 年度司法支援建築会議東北支部活動報告

運営委員長 吉野 博 (東北大学名誉教授)

司法支援建築会議の東北支部は2019年4月1日に設立され、今年で5年目を迎えた。設立の年の5月11日に東北支部発足記念講演会を開催し、その後、少なくとも毎年、支部総会の際に講演会を実施することとした。また、運営委員会を適宜、開催し司法支援に関する情報交換を行っている。以下、2023年度の活動について報告する。

### 1. 講演会の開催

2023年5月13日に、日本建築学会司法支援建築会議東北支部 第3回講演会を開催し、「建築と地震と建築基準法」と題して、建築構造センター取締役構造判定本部長・東北事務所長 加藤重信氏より講演を頂いた。講演では、建築基準法における地震時における建築物の安全性と人命確保の考え方や建築基準法と市民の関係、建築基準法よりも高い構造安全性を求める動きなどについて、地震の基本的な発生機構、過去の地震被害の特徴なども含めて分かりやすく解説頂いた。参加者は36名であった。

### 2. 運営委員会

運営委員会は本年度2回開催した。第13回(2023年11月2日)では、議事として、①本部運営委員会(2023/6/23)の報告、②最高裁判所の建築訴訟委員会の報告、③司法支援会議全体会議「ADRによる建築紛争の解決」の報告、④大会付随行事・第12回建築紛争フォーラム「近畿地域における建築紛争の現状と課題」の報告、⑤司法支援建築会議会報No.22の発刊報告、⑥次年度の講演会の企画、⑦仙台裁判所との交流、が取り上げられた。

第14回(2024年3月8日)では、議題として、①本部運営委員会(2024/2/16)の報告、②12月の支援会議講演会「建築技術と建築紛争の関係と対応 -防火・耐火を中心に-」の報告、③仙台地方裁判所との交流について、④支部講演会の企画、が取り上げられた。④支部講演会は、支部の「みちのくの風」の中で2024年6月22日(土)14:30~15:30に開催することとし、吉野運営委員長に「最高裁判所建築訴訟委員会の活動」と題して講演を依頼した。

2023年9月25日(月) 10:30~11:09

於 オンライン (Zoom)

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

#### (2) 東北建築作品発表会

2023年10月7日(土) 9:50~15:40

於 オンライン (Zoom)

第33回東北建築作品発表会において応募された作品の発表が行われた。アフターコロナであるが、東北地方に建設された建築物を全国の人に知っていただくことを目的にオンラインで開催した。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

#### (3) 第1次審査会

2023年10月7日(土) 16:00~16:50

於 オンライン (Zoom)

東北建築作品発表会終了後、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門と一般建築物部門を別々に選考せず、まとめて投票することになった。

全作品の中から一人10票以内で投票することとなり、各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門4作品、一般建築物部門9作品、合計13作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された13作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、施設管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行うこととした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

#### (4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して実施した。

#### (5) 第2次審査会

2024年2月9日(金) 16:30~19:30

於 日本建築学会東北支部会議室

まず、坂口委員長より全体の進め方と評価ポイントの確認があった。その後、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントにより報告した後、ほかに現地を確認した担当委員からも印象や評価すべき点を報告した。報告を受けて、それぞれの作品ごとに、審査の評価ポイント等につい

ての討議を参加の委員全員で行った。すべての作品の紹介と討議が終わった後に、出席の全委員による投票を行った。投票に当たっては、現地審査作品数が昨年度と同数であることを踏まえ、昨年度と同じ投票数を決定した。

投票の結果、作品賞は一般建築物部門から2作品、小規模建築物部門から1作品、合計3作品が選定された。特別賞は一般建築物部門から1作品、小規模部門から1作品、合計2作品が選定された。

#### (6) 総評

本年度は、小規模建築部門、一般建築部門を通じて用途及び様々なアプローチのある作品に応募いただきました。選考を経て選定された作品賞3点は、減築リノベーションによる住宅の持続性を提示した「盛岡の家」CLTと集成材によるダイナミックな空間を創出した「SYNEGIC office」、縦ログ構法を駆使した地域の豊かな情報拠点の計画である「きとね」、特別賞の2作品も地域との対話を重ねた保育所づくりと、移設と既存住宅の形式を踏まえた再構築したオフィスでした。作品の評価軸は多様ですが、本年度の受賞作に共通するのは、地域や環境のコンテキストの丁寧な読み取りとそれらを具体化するための手法、特に木造を中心とする実践的な技術力だったといえます。これらの受賞作が今後の東北の建築文化の一つの契機となればと思います。

#### (7) 選考結果

### 「作品賞」3作品

小規模建築物部門

#### ◆盛岡の家

【所在地】岩手県盛岡市

【設計監理】東京都市大学 中川 純

池原靖史建築設計事務所 池原 靖史

早稲田大学 菅野 颯馬

構造設計/滋賀県立大学 永井 拓生

設備設計/東京都市大学 中川 純

早稲田大学 菅野 颯馬

【施工】ウチノ建設株式会社 打野 秋男 上野建築 上野 一男  
丸山建設 六本木 昭浩

一般建築物部門

#### ◆SYNEGIC office

【施主】シネジック株式会社

【所在地】宮城県富谷市成田1-5-9

【設計】建築/UENO architects 長谷川欣則 堀越ふみ江

構造/ホルツストラ 稲山正弘 + KMC 蒲池健

設備/機械: ジーエヌ設備計画 五木田正和

電気/タクトコンフォート 田中慎一

外構/エスエフジー・ランドスケープアーキテツ

大野暁彦 金睿麟

【施工】建築/八光建設 柳沼幸代 山村裕之 橋本正博

木工事/オノツカ 小野塚真規 阿部智史

一般建築物部門

## ◆みなみあいづ森と木の情報・活動

### ステーション きとね

【施主】南会津町長 渡部正義

【所在地】福島県南会津郡南会津町田島字宮本 33-1

【設計】福島県建築設計協同組合

設計・監理/はりゅうウッズスタジオ (滑田崇志・齊藤光)

構造/AUM (濱尾博文・阿部光輝)

設備/エム設備設計事務所 (齋藤義彦・岡裕子  
遠山設備設計 (遠山邦夫)

照明/スパンコール (村角千亜希・ニノ倉絵里)

家具基本構想/藤江アトリエ (藤江和子・野崎みどり)

ランドスケープ基本構想/STEP (徳永哲)

【施工】建築/芳賀沼製作

空調・衛生/光和設備工業所 南会津支店

電気/阿久津電気工事

家具/みなみあいづ森林ネットワーク

木材支給/みなみあいづ森林ネットワーク

構造/関・空間設計 担当 大村勇

RGB STRUCTURE 担当 高田雅之

電気/TAKAHASHI ELECTRIC PLANNING

担当 高橋友紀

機械/E. I. S 設備計画 担当 高橋和弘

外構/環境造景研究所 担当 及川純一

【施工】建築・電気・機械/大和ハウス工業 (株) 仙台支店

(8) 講評

作品賞

【盛岡の家】

地方都市に立地する築 80 年を超える老朽化した戸建て住宅を次世代に住み継ぐためのリノベーションである。主なアプローチは、外皮減築、断熱補強、耐震補強の3つ。減築は室内への日射の確保するとともに、軒下空間に中間領域を創出することで外部空間とのつながりを豊かにしている。外壁の高断熱化は、吹き抜け句を含む開放的な室内の平面計画を実現している。床レベルを 450 mm 下げることによって、外部への眺望の確保と室内空間に広がりをもたらしている。耐震補強もジャッキアップをせずに、基礎の部分補強を行う構法を採用し束基礎から布基礎に変更している。また、サッシなどの部材についても腐食した部材を中心に最小限の交換にとどめている。それぞれの手法に共通しているのは、現状の建物の価値を丁寧に読み取りながら、次なるリノベーションを視野に入れた計画とするために、部材、接合方法、設備などを汎用性の高い方法を組み合わせることによって、住まいとしての持続性を創り出している。今後の住宅の持続性を考える上での実践的な改修方法として、優れた批評性を提示している。以上により東北建築作品賞に推薦いたします。

【SYNEGIC office】

木造用ビスメーカーのシネジックの新社屋計画です。配置計画、外構計画、平面計画、構造計画と様々な工夫をこらした作品といえます。配置・外構計画では、建物を敷地の真中に配置し街から近くに感じられる工夫や、在来種のタネを拾い育て植樹するなど、街の方々に親近感が得られるよう、様々な工夫がなされています。又、平面計画では、十字の事務エリアと四隅の実験室、ラウンジなどが吹抜を介し事務室とつながり、活発な対話や連帯感が生まれる計画となっています。構造計画では、入手しやすい 105 幅の住宅用集成材を用いた平面トラスを傾斜しながら並べ、トラスを三角形の CLT パネルで緊結する形で 18m の大スパンの無柱空間をつくりあげています。又、接合部を CLT で処理し、ビスのみの留め付けの工夫や、架構が手に触れられる距離からだんだん高くなる工夫など、様々な検討がなされた意匠性の高い、インパクトのある架構といえます。架構に目が行きがちな建物ですが、その土地の風土を生かした外構計画、刺激し合う平面計画など、様々な配慮がされた優れた建築だと思います。以上により東北建築作品賞にふさわしいと高く評価されました。

## 「特別賞」 2 作品

小規模建築物部門

## ◆ベコハウス

【施主】吉川彰布

【所在地】宮城県仙台市太白区東郡山1 - 22 - 2

【設計監理】吉川彰布+松本純一郎設計事務所

基本設計 吉川彰布

実施設計 松本純一郎設計事務所 松本純一郎  
小原麻未 久慈七実

構造/清水構造計画 清水靖真 近藤幸輝

設備/(株) 智建築設備設計事務所 佐々木勉

【施工】建築/(株) おおまり建設(有) アトリエ海(施工協力)

設備/(株) 冷暖

電気/(株) エディソン

一般建築物部門

## ◆女川町立しおかぜ保育所

【施主】女川町長 須田善明

【所在地】宮城県牡鹿郡女川町浜字大原602-3

【設計監理】建築/関・空間設計・石森建築設計事務所 共同体

関・空間設計 総括 渡邊宏 担当 岩根敦

佐々木大 石森建築設計事務所 担当 石森史寛 齋藤秀 (元所員)

## 【みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション きとね】

「みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション きとね」は、林業を核とした地域振興に取り組んできた南会津町が整備した、林産業に関する事業者の連携、情報発信、教育・研修、展示・販売などの機能をもつ交流拠点施設です。冬の2mの積雪に耐える屋根を地域でできるシステムで造るという考えのもと、機能的空間の入った縦ログ構法の箱と、その上に載せられる南北に貫く10本の重ね梁により、広々とした多目的な空間が作られています。また、木のおもちゃなどを有する木育スペースや誰でも使える大小様々な木製テーブルなどは、森林・林業・木材を身近なものとして実感でき、幅広い世代が集う憩いの場を提供しています。これまでの木造大型建築にとらわれない方法により、町有材の伐採から施工までほぼ全ての工程を町内で完結させたこの建物は、地産地消と脱炭素化・カーボンニュートラルに貢献し、町産材の価値を高める建築となっています。以上により、東北建築賞作品賞にふさわしいと高く評価されました。

## 特別賞

### 【ベコハウス】

災害復興支援を行う団体の事務所である本作品は、2つの建築物の移築を含む3つの建築物の複合体です。かつて東北建築賞作品賞を受賞した「都市計画の家Ⅱ」は三角形の平面を有し、その1面が開放的な実験住宅でしたが、オーナーで設計者の芳賀沼整氏が逝去したことに伴い、移転を余儀なくされました。芳賀沼氏の代名詞にもなった縦ログ構法の処女作である「KAMAISHIの箱」は、東日本大震災に際して建設された仮設集会所でしたが、こちらも同時期に移設の必要が生じました。前者は移築後も1階の開放的な表情を生み出し、再組立てを想定していた後者は2階の機能的な執務空間に位置付けられました。後者を支持する構造が新たに加わりながらも、両者の構造規範や表情が打ち消されず、むしろ空間が見事に解け合っていることが巧妙です。離れの「Capsule Box」にも縦ログ構法が採用されています。芳賀沼氏の精力的な復興支援活動に共鳴した人々によって本作品が設計されたことは、東北地方における東日本大震災以降の建築文化の発展を強く感じます。

### 【女川町立しおかぜ保育所】

いかに地域に開き、地域と連携できるかを考えて、近年のセキュリティを重視した閉ざされた園舎から、地域に開かれた園舎として実現すべく、多くのワークショップ等を経て実現された園舎は、女川駅からの軸線となる「ふれあいの道」を軸に中央に園庭、それを囲むようにドーナツ型の園舎となっている。散歩などで訪れる地域住民が、ベンチに座りながら園庭や斜面を利用してつくられた「ぼうけんの庭」を自由に遊び廻る子どもたちを見守ることができる仕掛けは非常に評価できました。内部も二つの円を使っ

て配置された教室は、遊戯室の天井が一番高く、角の2歳児室に向かって緩やかに傾斜していく天井と開口部などの操作により、見通しが良くなるように配慮がされ、円形のデメリットを解消し、連続性をもった空間となっている。中央のランチルームを起点に食育も含め、さまざまな地域との連携行事などが実現可能であり、そういった可能性を感じる魅力を持った園舎づくりが評価できました。

## 第44回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

・坂口 大洋 仙台高等専門学校総合工学科  
建築デザインコース

選考委員

・日比野 巧 日本大学工学部建築学科  
・有川 智 東北工業大学建築学部建築学科  
・菊田 貴恒 東北工業大学建築学部建築学科  
・小地沢将之 宮城大学事業構想学群  
・長田 城治 郡山女子大学家政学部生活科学科  
・本郷 智大 山形県立産業技術短期大学校建築環境システム科  
・濱 定史 山形大学工学部建築・デザイン学科  
・中山 武徳 (株) 中山建築研究所  
・進藤 勝人 (株) 八洲建築設計事務所  
・大野 晋 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

## 第44回東北建築賞業績賞選考報告

選考委員長 飛ヶ谷 潤一郎

「古建築を対象にした放射性炭素年代調査法の開発と応用」  
受賞者 中尾七重 (山形大学理学部研究員)

欧米開発の放射性炭素(14C)年代測定法を、日本の古建築年代調査に適用し、これまで数多くの歴史的建造物の建築年代判定に貢献したことは高く評価される。

従来、この方法は木材最外年輪の形成年代を確率で示すのみにとどまるが、中尾氏は、建築年代を判定するために、自然科学的手法と建築史学的方法を組み合わせ、古建築に適した14C年代調査の手法を開発した。具体的には、調査試料の採取は、見え隠れや害れ傷み・風蝕を利用し、材の損傷を最小にする試料採取方法を考案した。こうして得られた部材年代と、建築史学の痕跡復原調査法による建物の変遷を照合し、建築年代を決定した。さらに他の調査法のデータや既往研究と比較照合し、建築年代の検証を行なった。

このように、「ただ測る」のではなく、最終的に建築年代にたどり着くための部材選択と、「測定結果」に基づく「部材年代」判定と、他の方法のデータや古記録との照合から、真の「建築年代」を得る一連の手法を用いて、今日までに東北地方を中心に、古民家62件、町家16件、社寺等29件の年代調査を実施した。その結果、東北の民家の価値を高め、文化財活用や文化財指定・保存修理に寄与した。

以上のように建築史学における14C調査研究手法を開発

し、質の高い古建築 14C 年代調査を行い、古建築の調査保存活用に多大な貢献をしたことから、東北建築賞（業績賞）にふさわしいと判断した。

「福島県における地域文化財の保存修理・復原の設計監理に関する長年の取り組み」

受賞者 溝井宇一（有限会社溝井宇一建築事務所代表取締役）

溝井宇一氏は、東北工業大学在学時に大内宿や福島県の古民家調査に携わり、以降も一貫して氏の出身地である福島県の歴史的建造物の調査・復原・保全に取り組んできた。

1987年に建築事務所を設立したのちも、その姿勢は変わらず、担当した移築・保存修理・復原・活用事業に関する設計監理業務は福島県内で17件に及ぶ。その範囲は民家を中心として、旧広瀬座、旧石澤家茶室・八槻家神官、旧会津郡役所、旧渡部家住宅など多岐に及んでいる。

これらの大半は地方自治体にあつて地域文化を継承するもので、単なる展示物にとどまらず、地域住民の集まりや文化活動の場として日常的に活用されており、今後の文化財保存修理手法・保全活用事業に対して新たな方向性を示すものである。

溝井氏の文化財建造物に対する基本姿勢は、ヘリテージの根本に流れる価値観の継承であり、伝統的構法を維持しつつ新たな文化的価値を高めていくという、一種のアーキテクチュラル・イノベーションの域にあるものと評価される。そのため、溝井氏が復元保全設計管理に携わった地域の文化財建造物は、地域の身近な歴史的建造物が急激に消滅しつつある現代社会にあつて、ヘリテージ・マネージャーの手本とも目される活動領域として高く評価される。

以上より、本業績は東北建築賞（業績賞）に値すると認める。

## 第33回東北建築作品発表会報告

常議員 大野 晋

2023年10月7日（土）に、オンライン（Zoom）にて第33回東北建築作品発表会が開催された。本発表会は、東北建築賞作品賞応募者に作品についてプレゼンテーションをして頂くものであり、作品賞の1次審査を兼ねると共に、学会と地域社会との交流の推進、建築関係者の研鑽、ならびに東北地方の地域特性に立脚した建築作品の探求を目的としている。本年度は小規模建築物部門8作品、一般建築物部門20作品、その他の建築物部門1作品の計29作品であった。発表会においては、まず速水清孝支部長より挨拶があり、その後、坂口大洋選考委員長により発表にあたっての注意事項が説明された。その後の発表では、1作品につき質疑応答含7分の短い持ち時間であったものの、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて充実したプレゼンテーションが行われた。質疑応答も1分という

短い時間ではあったものの、活発な議論がなされ、活気のある発表会となった。

参加者は157名で盛会であった。今回は昨年度に引き続きオンライン開催となったが、事前の準備と参加者の協力によって滞りなく実施することができたと考えている。次年度以降の開催形式は未定であるが、今後も開催方式に関わらず、さらに関係団体、大学などを通じた積極的な案内を行い、より活気のある発表の場にするよう努めていきたい。

また、第33回東北建築作品発表会で発表される29作品と前回受賞した第43回東北建築賞作品賞が掲載されている東北建築作品集2023を刊行した。いずれも、近年の東北地方における建築活動の一端を示す貴重な建築作品であり、東北地方の建築にとっての共通課題の探求につながるものである。

## 日本建築学会「作品選集2024」東北支部 選考報告

東北支部選考部会長 安田 直民

「作品選集2024」の掲載選考にあたり東北支部には、23作品の応募があり、支部書類審査（リモート）を経て14作品が現地審査の対象となった。

現地審査の過程で、1作品が事業者の都合により審査が許可されないことが判明し、残りの13作品について現地審査をおこなった。現地審査を踏まえた支部審査会（リモート）では8作品（Aランク4作品、Bランク2作品、Sランク2作品）を本部に推薦することにした。

本部の審査会（リモート）では、事前の個々の審査による投票結果をベースに、7作品が掲載されることになった。

本部タスクフォース（学術・芸術・技術分野の進展タスクフォース）において、作品選集掲載作品のアカデミックな位置づけ（論文集に学術論文が採択されることと変わらない意義をもつ）が検討されていることは、たいへん意義深いことといえる。同時に作品選集の審査の厳格化やカテゴリーの細分化など必要なルールの検討も必要と思われる。

## 2023年度 日本建築学会設計競技支部審査報告

常議員 安田 直民

日 時：2023年7月10日（月）10:30～11:30

会 場：オンライン会議（ZOOM）

出席委員：井上貴詞（井上貴詞建築設計事務所）

大沼正寛（東北工業大学教授）

坂口大洋（仙台高等専門学校教授）

佐藤芳治（NPO法人都市デザインワークス事務局長）

安田直民 (SOYsource 建築設計事務所取締役)

課 題：「環境と建築」

応募総数：10 点

## 2023 年度 第 86 回支部研究報告会報告

常議員 八十川 淳

### 1. 審査方法

- 委員の互選により、審査委員長として坂口委員、議事録作成者として安田委員が選出された。
- 応募総数が 10 点であることから、応募規程「G.審査方法」により、最大 3 点を支部入選とすることを確認の上、全応募作品を審査した。
- 10 作品を対象に、入選に相応しいと判断した作品に、1 審査員につき事前に 3 票以内を投じる方式で行った。

### 2. 審査経過

- 各委員の投票を集計した結果、No.7 (5 票)、No.9 (4 票)、No.4 (2 票)、No.10 (2 票)、No.1 (1 票)、No.3 (1 票) が得票した。これらについて、上位作品から順に、支部入選に値するか否かの協議を行った。
- 4 票以上を確認した 2 作品を支部入選作品として候補とし、得票 2 票の作品を再度審査員で投票を行い、No.10 (3 票) No.4 (2 票) となり、No.10 も支部入選作品に追加することとした
- 以上 3 作品を入選作品としてふさわしいことを全員で確認し、支部入選作品とした。

### 3. 審査結果

審査結果、審査員評 (◎：支部入選作品 )

◎No.7 「ウママチ - 馬家族による連関的総体の創造 - 」

馬と共存することで地域の持続的環境を実現しようとする案。

◎No.9 「双葉納繕祭」

双葉町の再興を祭りとその抛り所となる施設により実現しようとする案。

◎No.10 「贖罪」

人工林を天然林にもどすというプロセスのなかで、自然とともに生きる町を模索する案。

### 4. 入選作品の講評執筆者

- 入選作品の講評執筆者を、以下の通り決定した。坂口委員長は審査報告 (支部年報) も執筆する。
- ◎No. 7 「ウママチ - 馬家族による連関的総体の創造 - 」 大沼委員
- ◎No. 9 「双葉納繕祭」 佐藤委員
- ◎No.10 「贖罪」 安田委員

2023 年度東北支部研究報告会「みちのくの風 2023 青森」は、2023 年 6 月 24 日 (土) と 25 日 (日) の二日間、オンライン (Zoom) にて開催された。初日の 6 月 24 日 (土) は、1) 構造系の招待講演として西澤英和氏 (関西大学名誉教授) による「歴史的建物と町並みの保全を考える」、2) 計画系の招待講演として小野田泰明氏 (東北大学教授) による「20 世紀の枠組みで 21 世紀の希望は実装可能か?」、3) オンライン見学会「八戸市美術館」が開催された。翌 25 日 (日) には研究報告会および建築デザイン発表会が開催された。研究報告会の発表総数は、計画系 44 題、構造系 18 題の合計 62 題であった。2022 年度は合計 73 題だったので、残念ながら 11 題減少した。報告会の会場は 3 つに分かれ、環境工学・計画+歴史意匠・構造・材料施工の分野ごとにおいて、大変活発な意見交換が行われた。本報告会は、新型コロナウイルス感染症の流行以来、3 回目のオンライン開催だった。参加された方々をはじめ、準備運営に関わった関係各位のご支援のお陰で無事終了することができた。

## 2023 年度 第 9 回日本建築学会東北支部 建築デザイン発表賞選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

### 1. 応募講演 4 講演

### 2. 選考経過

#### 2-1 建築デザイン発表会

2023 年 6 月 25 日 (日) 11 : 00 ~ 11 : 44

於：Zoom によるオンライン発表

今回は、昨年に引き続き、みちのくの風 2023 がオンライン開催となったことに伴い、建築デザイン発表会も Zoom を用いたオンライン開催となった。

応募 4 講演について、Zoom の画面共有機能を用いた発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われた。発表会は滞りなく進められた。時間厳守にご協力いただいた発表者各位、聴講者各位に感謝申し上げたい。

#### 2-2 選考委員会

2023 年 6 月 25 日 (日) 11 : 45 ~ 12 : 05

於：Zoomによるオンライン会議

## 2023年度 日本建築学会東北支部総会報告

前常議員 恒松 良純

発表を聴講した建築デザイン教育部会の部会員6名（下記参照）で、建築デザイン発表賞にふさわしい講演を選出することとした。

内規に従い、計4件の講演より1つの講演を選出することを確認し、部会員相互で協議した。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価し、議論を通して決定することとした。

結果、次節に示す講演に第9回建築デザイン発表賞を授与することとした。

選考委員長：櫻井 一弥（建築デザイン教育部会長、東北学院大学）

選考委員：小地沢将之（建築デザイン教育部会幹事、宮城大学）

谷本裕香子（東北工業大学）

佐藤 充（東北芸術工科大学）

馬渡 龍（八戸工業高等専門学校）

濱 定史（山形大学）

### 3. 選考結果

第9回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 1点

「かんかく - 遊び・学び・繋がる -」(E-4)

阿部 夏美、畠山 雄豪（東北工業大学）

### 4. 講評

「かんかく - 遊び・学び・繋がる -」

本計画は、南三陸町入谷地区を対象に、広い範囲にわたって子どもの遊び場をデザインした計画案である。自然の中での想像力に溢れた子どもの遊び場を「かんかく」をキーワードに空間化している。

計画の前段階として、実際のプレーパークにおける子どもの遊びを丁寧に観察し、その遊びから学びの要素を抽出して具体的な空間を設計するためのパタンランゲージに落とし込んでいる。

敷地の微妙な高低差や視点場の変化を緻密に読み込み、その場にふさわしい丁寧な空間設計が実現できていると評価できる。また、経年による木製遊具などの色の変化や、子どもたちが繰り返し遊ぶことで変化していく石や土の様相を想定している、言わば時間のデザインが織り込まれていることも秀逸である。

選考委員会では、そうした部分が高く評価され、今回の賞に選出された。

日時：2023年5月13日（土） 15:00～15:30

場所：オンライン（Zoom）+事務所

出席者：18名

資料：

日本建築学会東北支部年報第43号

2022年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料1-1：2022年3月31日現在 貸借対照表

資料1-2：2022年度 正味財産増減計算書（予算との比較）

資料1-3：2022年度 正味財産増減計算書内訳表

資料1-4：2022年度 同上（事業毎の決算比較）

資料 2：2022年度 会計監査報告書

資料 3-1：2023年度 正味財産増減予算書

資料 3-2：2023年度 正味財産増減予算書内訳表

資料 3-3：2023年度 正味財産増減予算書（事業毎の予算  
昨年度と比較）

恒 悠常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

#### 1. 出席者数の確認

出席者18名の確認がされた。

#### 2. 支部長挨拶

速水清孝支部長による挨拶があり、コロナ禍における東北支部の現状および今年度のみちのくの風 2023 はオンライン開催されることが報告された。

#### 3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、込山敦司氏及び柴山明寛氏が選出された。なお、事業報告・決算報告は5月の本部通常総会での報告事項となっており、支部総会では報告のみとし議長は設けないこととした。

#### 4. 議事

東北支部規程により、以下（1）（2）の事項について報告がされた。

（1）2022年度事業及び会計に関する件

##### 1）2022年度事業

谷本裕香子常議員より、支部年報22～23ページの「2022年度事業報告」に基づき、2022年度事業内容が報告された。

##### 2）2022年度収支決算

中嶋典之常議員より、資料1-1「貸借対照表」、資料1-2「正味財産増減計算書（予算との比較）」、資料1-3「正味財産増減計算書内訳表」、資料1-4「正味財産増減計算書（事業毎の決算比較）」に基づき、2022年度収支決算が報告された。

### 3) 会計監査結果

畠山雄豪支部監事より、資料 2「会計監査報告書」の通り、2022 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

#### (2) 2023 年度事業及び会計に関する件

##### 1) 2023 年度事業計画 (案)

市岡綾子常議員より、支部年報 24~25 ページの「2023 年度事業計画 (案)」に基づき、2023 年度事業計画案が説明された。

##### 2) 2023 年度収支予算 (案)

中嶋典之常議員より、資料 3-1「正味財産増減予算書」、資料 3-2「正味財産増減予算書内訳表」、資料 3-3「正味財産増減予算書 (事業毎の予算 昨年度と比較)」が説明された。

上記 (1) (2) の報告内容について、特別な問題指摘などは無かった。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2023 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

## 研究部会活動報告

### (1) 建築史・意匠部会

部会長 大沼 正寛

建築史・意匠分野は、多彩な学術進展のいっぽうで保存活用等の実践がすすみ、車の両輪をなしている。そこで近年は学術系/実践系でのシンポジウムを隔年で行うこととした。昨年度は実践系のシンポジウム「歴史的建造物がもつ『しなやかさ』」を行ったので、今年度は学術系とし、2023 年 12 月 9 日に東北工業大学一番町ロビーにて、オンラインを併用し「素材をめぐる東北の建築史学 一木と石を中心に」を行った。参加者は約 30 名である。

まず筆者より主旨説明として、木や石など建築材料・素材は地域性が現れること、素材をめぐる建築史学研究の意義を問いかけた。話題提供者は 4 名である。中山利恵氏 (京都工芸繊維大学) からは「木材の経年を操作する一日本の木造建築における「洗い」に着目して」と題し、関西で発達した建築木部の「洗い」に対し、関東では塗師が豪華絢爛な建築美を支えた相違性、美意識の地域性などについて大変興味深い知見が示された。続いて、内山隆弘氏 (東北大学) から「石からみた建築遺産-岩質に着目して」と題し、建築と大地の材料である石材がもつ性質を科学的に同定しながら建築史に還元していく手法が示された。また、阿部正氏 (東北工業大学・NDA) から「民家における石屋根の比較考察-天然スレートを中心に」と題し、スレート建築の略史と民家への展開、生産地の震災復興について紹

介があった。さらに、黒坂貴裕氏 (八戸工業大学) から「板倉・小屋から見た東北民家」と題し、日本各地の農山村における作業小屋、倉・蔵など、造形の多様性と要因などが示された。会場討論ののち、永井康雄氏 (山形大学) より、木から石まで、学術的知見への関心の要点が列挙され、今後の更なる深化に期待したい、とまとめられた。

なおもう一点、東北建築賞の要項改訂について意見を交わしたのが今年度の主な部会活動であった。関係各位のご協力に謝意を申し上げたい。

### (2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

日本建築学会東北支部建築計画部会のメンバーの年度内活動の一つとして、2022 年 3 月 16 日に発生した福島沖を震源とする地震に対する被害調査を、昨年度末に行い本年度に入りの課題整理を施工部会とともに行いました。また、建築学会のウイズ/アフターコロナに適応する建築・都市に関する特別調査委員会 (主査大月敏雄先生 (東京大学)) における関連調査として、宮城県を中心とした文化施設における施設利用における感染対策の状況、及びコロナ禍における施設利用状況の推移などの調査を行った。様々な課題が散見されたが、特に動線計画におけるゾーニングの重要性や地域の市民活動団体の活動量の低下などが再認識された。

### (3) 地方計画部会

部会長 小地沢 将之

地方計画部会は、引き続き「小地域のエリアマネジメント」をテーマに、教育研究や実務のさまざまなフィールドで活躍する部会員の関心領域の擦り合わせを行った。

また昨年度は、支部研究補助費により、「郊外住宅地の新陳代謝に関する実態調査」を実施し、3 つの調査を行った。その詳細は、当該報告のページを参照されたい。この調査の報告会は、2024 年 3 月 8 日に将監市民センター (仙台市泉区) で開催した。センターの一角には住民が管理運営する「みんなのサロン ふれ・ミー」があり、報告会もここを会場に実施し、多くの住民にも聴講していただいた。報告会では、将監地区の高齢者を対象とした住替え意向に関する調査についても報告を行ったところ、地区内で単身高齢者世帯や空き家が増加しつつあることについて聴講していた住民から発言があった。郊外住宅地においては、医療や福祉、買い物などの日常生活機能が損なわれることによって、人口減少が急速に進むことが知られており、持続可能な居住環境の実現のためには種々のサービスの提供を含めた一体的なエリアマネジメントが不可欠であることを再確

認した。



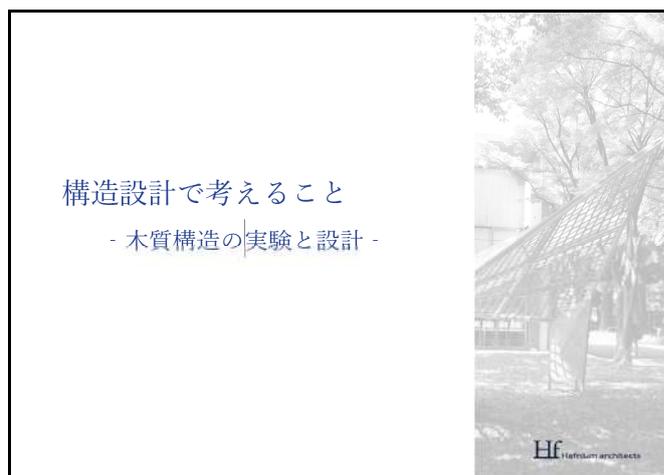
ところで長年、地方計画部会の部会長を務められ、近年も幹事として支えてくださった増田聡先生がご栄転となり、他支部に転出された。長年の功績にあらためて感謝申し上げます。

#### (4) 構造部会

部会長 前田 匡樹

2023年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が緩和された中、徐々に部会としての活動を再開できるように、準備を開始した。

2024年1月10日に、東北大学工学部において、ハフニウムアーキテクト 代表 福山弘氏を講師としてお招きして、講演会「構造設計で考えること - 木質構造の実験と設計 -」を開催した。福山先生の作品の紹介・解説を通して、構造設計・構法などに関する興味深いお話をいただき、情報交換や研鑽の機会を設けた。



#### (5) 環境工学部会

部会長 許 雷

環境工学部会では「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」という研究テーマを設定している。5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったため、部会活動は対面とオンライン会議 (Teams) を併用し4回開催 (7月・10月・12月・3月) した。昨年度では、「情報化と環境」を部会共有のテーマとしており、今年度では、特に大学における BIM 教育に取り組んでいる。

7月の部会では、国土交通省が主催する BIM 推進会議や設備業界の BIM 動向を紹介し、設備設計における BIM 教育のあり方について検討した。10月では、東北工業大学建築学科 CAD 演習室にて、部会長を講師として、Revit2024 の体験講座を開講した。建築モデルの構築 (壁面積、熱属性材質の集計など)、BIM 国際規格である IFC データの出力及び IFC ビューアによる IFC データの確認を練習した。12月では、給排水設備モデルの講座を開講した。BIM ソフトの使用はパソコンスペックに左右されるため、オンラインで参加した部会員からは操作説明に追いつけなかったという声もあった。BIM ソフトの導入にあたって、パソコン動作環境の準備が必要と再確認した。

当部会では、毎年、親と子の都市と建築講座を提案し、今期は7月30日に秋田 (「スマハキット」でスマートハウスの実力を体感しよう)、2月24日に仙台 (「組手什」で小さな家具づくり) を拠点として対面で実施した。秋田のイベントでは、仙台市、秋田市に滞在する部会員が連携しながら子供たちに「スマハキット」で組み立ててスマートハウスの実験用模型を作り、自然エネルギー利用の重要性を理解してもらった。仙台のイベントでは、子供たちに組手什や木材利用を解説し、小さな家具の加工と製作を通して、和の伝統技法の魅力を体験してもらった。

来年度は、部会員の研究事例や企業における BIM 応用現状を紹介すると同時に、BIM セミナーを継続したいと考えている。

## (6) 材料部会

部会長 石山 智

2023年度の材料部会では、2022年度から引き続き、新たな建築材料教育模索をテーマとして部会を2回開催し、活動を行った。開催した2回はどちらも施工部会と合同での開催となった。

第1回部会は12月7日に開催し、東北大学、日本大学、秋田県立大学で行われている最新の研究について、各大学の学生・院生から紹介いただき、情報交換を行った。主に建築施工にかかわるテーマが発表され、活発な意見交換がなされるとともに、各大学の取り組みについて知る貴重な機会となった。第2回部会は2月21日に開催し、芝浦工業大学の濱崎仁先生をお招きして中性化に関する講演会を実施した。

次年度以降は、引き続き建築材料教育の在り方に関する模索を続けるとともに、新たな教育ツールや実務と教育の連携について検討していきたいと考える。

## (7) 施工部会

部会長 西脇 智哉

2023年度の施工部会は、下記に示す4回の部会を開催した。オンラインを併用したハイブリッド形式を活用しつつ、基本的には支部会議室での対面実施とした。

第1回部会は2023年6月6日に開催し、今年度の活動内容について議論を行った。第2回部会は2023年9月19日に開催し、寒中・暑中コンクリート工事の適応期間を示すマップと日本建築学会大会の研究協議会「RC造建築物の限界状態再考—次世代の耐久設計」の内容を紹介して施工の立場からの取り組みについて意見交換を行った。

第3回部会は材料部会と合同で2023年12月7日に開催した。建築施工に関わる各大学で取り組んでいる研究トピックについて、大学院生から紹介いただいた。秋田県立大学からは、IT技術を活用した大工技術の保存・継承について、日本大学からはバクテリアを利用した自己治癒コンクリートについて、東北大学からはコンクリート3Dプリンティングとその補強材の導入について研究紹介を行った。それぞれの内容について、参加委員から活発な意見交換が行われた。

第4回部会も続けて材料部会との合同開催とし、2024年2月21日に濱崎仁教授（芝浦工業大学）をお招きして講演会を行った。第2回部会でも取り上げたコンクリートの中性化と限界状態について、先述の研究協議会の登壇者でもありJASS5の改定委員会などでも中心的な役割を果たされている濱崎先生から、最新の研究から社会実装に向けた取り組みなど、幅広い内容を講演いただいた。オンラインと支部会議室のハイブリッド開催として、広い意見交換を行う盛会となった。

次年度についても、環境配慮の側面も含めたコンクリート

の限界状態のあり方や、これを踏まえた東北地区での建築施工についても継続して取り組みたい。

## (8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2023年度は、昨年度に引き続き6月の「みちのくの風」はオンラインでの開催となり、それに合わせて「第9回建築デザイン発表会」もオンラインでの開催となった。応募4講演について、Zoomの画面共有機能を用いた発表が行われた。また、もう一つの大きな事業として、2014年度よりJIA（日本建築家協会）東北支部との共催で実施している「建築学生テクニカルセミナー2023」を対面方式で開催し、実りある成果が得られた。

第9回建築デザイン発表会は、2023年6月25日（日）11:00～11:44に行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われ、発表会は滞りなく進められた。その後、建築デザイン発表賞選考委員会を開催し、1題を第9回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞として選出した。賞の選考過程に関する詳細並びに講評については「2023年度 第9回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 選考報告」を参照されたい。

建築学生テクニカルセミナー2023は、2023年11月16日（木）17:00～19:00に、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアにて対面形式で行われ、学生約50名、建築関係者約30名の計約80名が参加した。

上記2つの大きな事業に加えて、第27回JIA東北建築学生賞に対する本部会からの審査員派遣を行った。実施日時は2023年10月20日（金）12:30～18:00、実施場所はせんだいメディアテーク1階オープンスクエアで、対面形式での開催であった。

2024年度は、感染症等のリスクが軽減していると予想されることから、対面形式を前提に活動を進めていく予定である。

## (9) 災害調査連絡会

委員長 佐藤 健

災害調査連絡会では、地震などの自然災害が発生した際に、迅速な被害調査、及び、復興支援活動を実施するための組織と連絡体制の整備に継続して取り組んでいる。委員長（佐藤健）のもと、東北支部内の研究部会の各部会長及び部会推薦委員からなる連絡・調整幹事会を設置し、本部災害委員会・東北支部代表委員（日本大学・日比野 巧専任講師）と連携しながら、災害発生時の情報発信と共有、被害調査の調整などを行っている。

2023年度は、東北地方において大きな地震災害は発生し

なかった一方で、2023年7月14日から16日にかけて降り続いた記録的な大雨の影響で、秋田市の中心市街地が広範囲に浸水する被害が発生した。

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震（最大震度7、M7.6）」およびそれに伴う津波は、石川県能登地方を中心に甚大な被害をもたらした。東北支部としての調査団を組織することはしなかったが、東北大学災害科学国際研究所（大野晋准教授、柴山明寛准教授ら）および防災科学技術研究所（藤原広行上席研究員ら）と連携し、調査計画の打ち合わせや、調査結果の情報共有等を行った。

## (10) 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会

委員長 田中 礼治  
副委員長 船木 尚己

2024年3月9日（土）にせんだいメディアテーク7階スタジオシアターで津波のひなんの方法を考えるシンポジウムを開催した。この事業は日本建築学会災害委員会支部市民企画が採択されたものである。

下記の演題でシンポジウムを開催し46名の参加があった。

①齋藤徳美氏【岩手大学・名誉教授】

テーマ「日本海溝北部の地震での津波避難 ～久慈市が抱える課題～」

②小関勝男氏【小関構造設計室(岩手県)・主宰】

テーマ「あの日、長い日」

③高校生の意見【仙台西高等学校】

テーマ「ひなんする判断基準についての考察」

④田中礼治氏【東北工業大学・名誉教授】

テーマ「垂直ひなんを考える」

⑤船木尚己氏【東北工業大学・教授】

テーマ「津波ひなんの伝承について考える」

今年の正月は地震で明けた。大きな地震と津波が石川県で発生した。テレビを見ていたら、アナウンサーが、「今すぐ避難！今すぐ避難！東日本大震災を思い出して下さい！」と緊迫した様子で、何度も警鐘を鳴らしていた。

現在、日本建築学会東北支部でちょうど、津波減災研究委員会を設置し津波のひなんに関して検討している「津波とひなん」に関して皆で考えてみるのも大切なことだと思っている。

今回のシンポジウムでは日本の将来を考えて、高校生、大学生などの若い人にも多数参加していただいた。老若男女で、これからの日本の将来を考えるよい機会であったと考えている。

各発表終了後、各方面から津波とひなんの関係について会場の皆さんと話をしてみた結果、次のような3項目のいまだ十分に議論されないまま残されていることが判った。

①津波の時のひなん方法についてはまだ十分に議論されていないこともあるのではないかとという意見もあった。

②津波のひなん方法として、垂直ひなんが有効だと考えられ

るが、まだ十分に議論されていない部分もあるのではないかとという意見もあった。

③日本の学校建築では、一文字型のものが多いが、津波のひなんを考えた場合には、凸型の学校の方が有効であるという意見も多かった。

以上のような意見から考えると、津波ひなんの関係については今後とも検討を続けて行くのがよいと考えられるので、シンポジウムも今年度中にあと2回ほどおこなうことを考えている。皆さんと一緒に「津波ひなん」について検討してみたいと考えている。

## 支所だより

### 青森支所

青森支所長 川島 芳正

青森支所の今回の全員協議会の基調講演は、五十嵐太郎先生の「青森建築史は可能か」という題目の講演でした。学会以外の市民や建築関係者も多く集まり約40人参加の支所のイベントとしては大きなイベントになりました。肝心の内容はというと、非常に興味深い話で、日本の建築史の流れを説明しつつ、青森の建築の流れを、文献を元に比較検証して説明していくという内容で、建築が素人の市民の方にもわかりやすい内容になっています。参考文献も青森県庁でまとめたものが多く、気軽に県民の方であればオンラインなどを利用して深く掘り下げることができ、興味をもったら後から学びやすい講演です。ただ、文献的には江戸時代からでないといふ資料がなく、江戸時代前の検証は五十嵐先生も難しかったようです。江戸時代あたりから弘前城や武家屋敷の建築の話となっていく、その後明治・大正時代となると洋風建築の話へと繋がっていきます。洋風建築は青森県では、堀江佐吉という棟梁が活躍しています。その子孫の方も会場に来られていて、五十嵐先生とちょっとしたクロストークになり、会場を盛り上げました。堀江佐吉の建築は未だに多く残っており堀江佐吉を巡るイベントもできそうです。

昭和になると、前川罔男の話になっていきます。青森県弘前市は前川建築が8つ残っており、弘前市役所は未だに前川建築設計事務所増改築をおこなっているくらい、前川建築を大切にしており、前川建築の話が出てきました。

平成になると、地元建築家の事例が出てきて、五十嵐先生自身が東北住宅大賞の審査員を10年間うけていましたので、住宅を中心に青森県らしい住宅について講演されました。

地元の建築の歴史を紐解く機会は今なかなかないので、よい基調講演でした。



## 秋田支所

秋田支所長 松本 真一

支所主催の「秋田県工業系高校生徒による建築設計作品コンクール」の実施が活動の中心でした。本年度は募集要項を改正し、既発表作品の応募禁止など、従来曖昧であった要件を明快かつ厳格にしたため、応募件数の減少が懸念されましたが、応募作品10点（制作参加者のべ20名）と昨年と同様でした。50年を超える高校生徒支援行事の伝統は維持できたと、支所役員一同、安堵しているところです。応募作品は、コンクールのための新規プロジェクトと異なり、正課科目などで扱った課題をブラッシュアップしたものが大半でしたが、そのアップグレードの中身には教員の指導・助言に基づく緻密化の跡だとか、グループでの議論や協働の跡が認められ、若者らしい「伸びしろ」のある頼もしいものばかりでした。特に今年は、身近な地元の建築的課題に真正面から取り組んだ作品が目を引きました。最優秀作品賞に選出された秋田県立秋田工業高等学校の生徒2名による「DRAMATIC NEXT ARENA 八橋の杜・活性化計画～新秋田県立体育館とバスターミナルを核としたまちづくりの提案～」は、現実に進行しているプロジェクトに一石を投じるような、充実した内容のものでした。

コンクールの表彰式と講評会は令和6年2月10日に実施しました（写真）。後援頂いた建設業関連8団体の役員の皆様、裏方として支援して下さった秋田県と秋田市の建築行政関係職員の皆様に、この紙面を借りて御礼を申し上げます。

## 岩手支所

岩手支所長 佐藤 英明

岩手支所で例年後援している「盛岡市都市景観シンポジウム」が、今年度は、2024年1月27日に盛岡劇場で開催されました。より多くの市民に参加してもらうため、初めての土曜日開催となった今回は、基調講演に地元テレビ局のアナウンサー江幡平三郎氏をお迎えして行われ、氏がまち歩き番組を通して感じた盛岡の魅力などについてお話いただきました。

また、講演に先立って、盛岡市都市景観賞の表彰式が行われ、盛岡町家の意匠を取り入れた「紺屋町の町舎（まちや）」など、新しい街並みづくりの手本となるよう期待が込められた建築2件が受賞しました。



紺屋町の町舎（まちや） ※盛岡市ホームページより

来年度、5年ぶりに対面での実施が予定されている「みちのくの風2024」が、この盛岡市で開催されます。

ニューヨーク・タイムズ紙により「歩いて回れる宝石的スポット」と評された市内には、石垣の美しさで有名な盛岡城跡のほか、国の重要文化財である「岩手銀行赤レンガ館」や、昨年度都市景観賞を受賞した「紺屋町番屋」など魅力ある建造物が数多く遺ります。この機会に是非足をお

運びいただければ幸いです。

## 山形支所

山形支所長 相羽 康郎

昨年度実施したワークショップを契機に、旧師範学校木造講堂の保全活用目的としたより広範な実行委員会が設立され精力的に活動が始まった。本年度は実行委員会に参加しているNPO法人まちづくり山形主催の「三島通り境界のまち歩き」を山形支所が共催する活動として、昼食場所の旧千歳館（山形市が所有管理）で昼食後に話し合う議事を4学協が受け持った。まち歩きは11月18日9:30-12:00、昼食後、13:00-15:00に話し合った。合計35名が参加し3グループが数分の間隔で出発し、旧千歳館では別途3グループごとに話し合った。まち歩きは翌日の山形新聞に写真入りで掲載された。

三島通りは三島通庸が開削し、公園兼農事試験場の千歳園周囲の南側道路である。突き当りに旧師範学校が国重要文化財の教育博物館としてアイストップになっている。その左手の木造講堂は、明治34年に旧県庁舎前通りから移転新築され教育博物館と一体の建築物ながら県指定文化財として放置されてきた。三島通り境界は今後山形市のまちづくりへとつながる近代化の歴史的な境界として位置づけられていくことが期待できる。

建築学会が呼び掛けて4学協ワークショップ成果をもとに、県市の担当部署と話し合ったけれども、学協会の働きかけだけでは限界があった。市民に呼び掛けて開催した昨年度のワークショップが、実行委員会設立につながったことは喜ばしい。一方、建築学会山形支所活動として新機軸を打ち出すことも含めて、今後の支所活動を4学協とともに考えたい。



## 福島支所

福島支所長 星 剛

2023年度は、『「親と子の建築講座」～やさしい建築 折り紙建築ワークショップ～』の開催や『建築士事務所キャンペーン』の共催、『第16回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰』への協賛を中心に活動しました。

「親と子の建築講座」は、7月30日に福島市の福島県教育会館で開催し、6組12名の親子に参加いただきました。折り紙建築の製作を通じて建築のデザイン等を楽しく学び、身近に感じてもらうことで、建築へ興味を持ってもらうことを目的に、県内に実在する建築物をモデルとした折り紙建築を数種類用意しました。参加者は非常に繊細な作業に悪戦苦闘しながらも完成させた折り紙建築をお互いに評価し合うなど、建築デザインに親しみながら触れることができました。

「建築士事務所キャンペーン」は、2月16日に西郷村の東京第一ホテル新白河で開催し、一般の方も含め約150人に参加いただきました。「リノベーションの発想によるまちづくり」と題して株式会社ブルースタジオの大島芳彦氏が講演し、新しい時代に対応したまちづくりの手法や過去のリノベーション事例を紹介いただきました。

「第16回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式」では、県内の建築系学科を有する高校4校の12人を表彰し、高校生活で培った技術や創造性を讃えました。3月13、14日に福島市で開催された優秀作品展では、生徒の様々な工夫やアイディアに溢れるすばらしい作品が並び、多くの県民が見学しました。

当支所といたしましては、建築に携わる将来の担い手を確保・育成するため、建築の魅力を広く情報発信するなど、引き続き、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根ざした支所活動を更に充実させ、福島の復興・創生に貢献していきたいと考えております。

### 支部役員会から

常議員 権代 由範

支部役員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が4月、5月、7月、10月、11月、2月、3月と開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。支部役員会の開催に際しては、対面とZoomを上手に利用し、出席者の増加に効果を上げている。

毎年恒例の行事である、支部総会と支部研究報告会を核とした「みちのくの風」であるが、オンライン(Zoom)を利用して開催し、研究報告集第86号(構造系・計画系)とCD-ROMを発刊した。特別企画として、西澤先生の招待講演(構造系)、小野田先生の招待講演(計画系)、また八戸市美術館にご協力いただきオンライン見学会を開催し、盛会に終了した。

また、東北建築賞作品賞部門については昨年度引き続きオンラインを用いて東北建築作品発表会を開催した。

その他、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。2023年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

#### ■4月支部役員会(2023年4月26日開催)

[報告事項]理事会報告、会計報告、決算報告、代議員常議員選挙結果・役割分担、支部研・デザイン発表会論文募集の報告と懸案事項、司法支援建築会議東北支部第3回講演会について、支部年報編集報告 [審議事項]支部総会の業務確認、みちのくの風2023青森、新常議員の役割分担、事務局職員の給料、2023年度支部長代行、2023年度災害委員会支部企画、その他

#### ■5月支部役員会(2023年5月13日開催)

[新旧役員の引継ぎ] [報告事項]年間行事予定と会議形式、会計報告、建築文化週間事業報告、オンラインストレージの使用方法、[審議事項]支部長代行者、みちのくの風2023青森、卒業設計展示会、[審議事項]築文化週間事業、後援依頼、その他

#### ■7月支部役員会(2023年7月25日開催)

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部総会報告、みちのくの風2023青森開催報告、作品選集2024選考進捗報告、本会設計競技支部審査報告、後援依頼承諾、災害委員会支部企画申請と採択報告、後援依頼承認報告、[審議事項]みちのくの風2024岩手について、本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼、東北建築賞の再検討について、次年度からの支部研究報告会梗概集について、次期支部長選挙について、後援依頼他

#### ■9月支部役員会(2023年9月28日開催)

[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集2024報告、第25期代議員および支部役員選挙、東北建築作品発表会開催報告、本会教育賞(教育業績)推薦報告、東北建築賞WGの報告 [審議事項]みちのくの風2024岩手、選挙管理委員会の設置、2024年度設計競技支部審査員(常議員枠)、支部研究報告会の梗概について、事務局の基本給昇給率について、事務所の清掃費削減について、その他

#### ■11月支部役員会(2023年11月27日開催)

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員・支部推薦

理事・常議員候補者届出報告、次期設計競技全国審査員・支部審査員選出報告、作品選集2025支部選考部会委員報告、第33回東北建築作品発表会報告、建築基礎構造設計例集改訂講習会開催について[審議事項]みちのくの風2024岩手、2024年度支部予算案、支部研究報告会論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、支部年報発刊計画、支部研究補助費申請、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、後援依頼、その他

#### ■2月支部役員会(2024年2月29日開催)

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部研究補助費申請報告、秋田支所からの賞状贈呈依頼承認報告、2024年度全国・大学高専卒業設計展示会の日程報告、支部年報44号原稿執筆依頼、第44回東北建築賞作品賞選考報告、第44回東北建築賞業績賞選考報告、[審議事項]東北建築賞再検討について、2024年度親と子の建築講座と建築文化事業、男女共同参画事業、後援依頼、その他

#### ■3月支部役員会(2024年3月27日開催)

[報告事項]理事会支部長会議報告、会計報告、支部研・デザイン発表会論文提出報告、2023年度支部研究補助費活動報告、代議員の開票結果報告、男女参画事業報告、支部年報編集進捗[審議事項]みちのくの風2024岩手、後援依頼、その他

## 2024年度 支部役員名簿

### 東北支部常議員の構成と役割分担

役割	2023年度 (2023年6月～2024年5月)	2024年度 (2024年6月～2025年6月)
支部長	速水 清孝 (日大)	松本 真一 (秋田県立大)
総務企画	市岡 綾子 (日大) 込山 敦司 (秋田県立大) 柴山 明寛 (東北大) 中村 琢巳 (東北工大) 権代 由範 (仙台高専)	柴山 明寛 (東北大) 中村 琢巳 (東北工大) 権代 由範 (仙台高専) 堀川 真之 (日大) 櫻井 真人 (秋田県立大)
社会文化	大野 晋 (東北大) 安田 直民 (SOY source 建築設計事務所)	後藤 伴延 (東北大) 福士 譲 (フクシアンドフク シアーキテクト/八戸工大) 錦織 真也 (東北工大)
学術教育	八十川 淳 (東北文化学園大) 齋藤 俊克 (日大)	齋藤 俊克 (日大) 山本 和恵 (東北文化学園大)
会会員	田中 暁之 (JR 東日本) 笹淵 優樹 (仙台市)	田中 暁之 (JR 東日本) 笹淵 優樹 (仙台市)
図書情報	安部 信行 (八戸工大) 栗原 広佑 (東北工大)	栗原 広佑 (東北工大) 野口 巧巳 (八戸工大)

### 研究部会長

研究部会	部会長
構造部会	前田 匡樹 (東北大学教授)
材料部会	石山 智 (秋田県立大学准教授)
建築計画部会	坂口 大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	小地沢将之 (宮城大学准教授)
建築史・意匠部会	大沼 正寛 (東北工業大学教授)
施工部会	西脇 智哉 (東北大学准教授)
環境工学部会	許 雷 (東北工業大学教授)
建築ガザン教育部会	櫻井 一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	佐藤 健 (東北大学教授)
津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 (期限付)	田中 礼治 (東北工業大学名誉教授)

### 東北支部会員数 (2024年3月1日現在)

名誉会員	3名
終身会員	75名
正会員 (個人)	1,097名
正会員 (法人)	33法人
準会員	45名
賛助会員	6法人

### 支部監事

2023年6月～2025年5月  
鈴木 博之 (仙台市)  
佃 悠 (東北大)

### 東北支部選出代議員

任期	代議員
2023年4月 ～ 2025年3月	小野田泰明 (東北大学教授) 長谷川兼一 (秋田県立大学教授)
2024年4月 ～ 2026年3月	小林 光 (東北大学教授) 堀 則男 (東北工業大学教授)

### 支所長

支所	支所長
青森支所	川島 芳正 (川島隆太郎建築事務所代表取締役)
秋田支所	松本 真一 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	刈谷 洋祐 (岩手県県土整備部建築住宅課営繕課長)
山形支所	相羽 康郎 (特定非営利活動法人まちづくり山形理事長)
福島支所	星 剛 (福島県土木部建築住宅課長)

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2023 年 4 月 1 日
<b>2023 年度事業報告</b>	
	至 2024 年 3 月 31 日

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2022 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2023 年度事業計画・予算案	2023 年 5 月 13 日 オンライン (Zoom)
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (7)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞業績賞選考委員会 (2)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2)、司法支援建築会議東北支部運営委員会 (2)、男女共同参画事業 (1) その他部会など開催	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 五十嵐太郎、薛 松濤 (新任) 小野田泰明、長谷川兼一	2022 年 4 月～2024 年 3 月 2023 年 4 月～2025 年 3 月
支 部 長 改 選	(留任) 速水清孝	2022 年 6 月～2024 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 坂口大洋、鈴木博之、高橋岳志、谷本裕香子、佃 悠 恒松良純、中嶋典之 (留任) 安部信行、市岡綾子、大野 晋、込山敦司、安田直民、八十川淳 (留任) 栗原広佑、権代由範、齋藤俊克、笹淵優樹、柴山明寛、 田中暁之、中村琢巳	2021 年 6 月～2023 年 5 月 2022 年 6 月～2024 年 5 月 2023 年 6 月～2025 年 5 月
支 部 監 事	(退任) 高橋良子、畠山雄豪 (新任) 鈴木博之、佃 悠	2021 年 6 月～2023 年 5 月 2023 年 6 月～2025 年 5 月

### 〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 石山 智 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 建築史・意匠 : 飛ヶ谷潤一郎 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 長谷川兼一 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 西脇智哉 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 (期限付) : 田中礼治	
本部・支部研究助成金による研究	研究題目: 郊外住宅地の新陳代謝に関する実態調査 研究部会: 地方計画部会 (研究代表者 小地沢将之)	2023 年 4 月～2024 年 3 月
支部研究報告会	2023 年度第 86 回東北支部研究報告会 研究報告集第 86 号計画系・構造系刊行 発表題目 62 題	2023 年 6 月 25 日 オンライン (Zoom)
建築デザイン発表会	2023 年度第 9 回東北支部建築デザイン発表会 発表題目 4 題	2023 年 6 月 25 日 オンライン (Zoom)
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1) 建築教育文化事業 建築文化週間事業 第 44 回「東北建築賞」募集 2) 第 33 回「東北建築作品発表会」の開催 3) 第 44 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2023 青森 ・第 86 回支部研究報告会 ・第 9 回建築デザイン発表会 ・特別企画事業	2023 年 10 月 7 日 オンライン (Zoom) 2022 年 10 月～2023 年 1 月 2023 年 6 月 25 日 オンライン (Zoom) 2023 年 6 月 24 日

	<p>(特別企画事業1 招待講演構造系) 講義内容:歴史的な建物とまちなみの保全を考える 講演者:西澤英和(関西大学名誉教授)</p> <p>(特別企画事業2 招待講演計画系) 講義内容:20世紀の枠組で21世紀の希望は実装可能か? 講演者:小野田泰明(東北大学教授・前日本建築学会副会長・前建築計画委員会委員長)</p> <p>(特別企画事業3 オンライン見学会) 講義内容:地方都市における文化施設の実践~八戸市美術館の取り組み 講演者:浅子佳英(建築家・PRINT&amp;BUILD) 佐藤慎也(日本大学教授・八戸市美術館館長)</p> <p>2. 支部共催 親と子の都市と建築講座 ①秋田会場 リモート「スマハキット」でスマートハウスの実力を体感しよう ②福島会場 親子で学ぼう ~やさしい建築 折り紙建築ワークショップ~ ③宮城会場 “組手什(くでじゅう)”で小さな家具づくり</p> <p>3. 男女共同参画事業 大西麻貴氏講演会「わたしと建築 一愛される建築を目指して」</p>	<p>オンライン (Zoom)</p> <p>2023年8月1日 オンライン (Zoom)</p> <p>2023年7月30日 福島県教育会館</p> <p>2024年2月23日 宮城教育大学</p> <p>2024年3月21日 オンライン (Zoom)</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 支部功労会員表彰 法人賛助会員 3社、個人会員 5名 2. 設計競技支部入選者の紹介4名 3. 終身正会員の紹介7名 4. 第9回建築デザイン発表賞1名 5. 第43回東北建築賞表彰式 作品賞4作品、特別賞1作品</p>	<p>2023年5月13日 オンライン (Zoom)</p> <p>2023年6月25日 オンライン (Zoom)</p>
支所活動	<p>青森支所 ・全員協議会 ・基調講演会「青森建築史は可能か」</p> <p>秋田支所 ・第52回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</p> <p>岩手支所 ・第46回盛岡市都市景観シンポジウム後援など</p> <p>山形支所 ・学協会ワークショップ三島通り界限 歴史文化まちづくり街歩き</p> <p>福島支所 ・親と子の都市と建築講座「親子で学ぼう ~やさしい建築 折り紙建築ワークショップ~ ・支所後援事業など</p>	<p>2023年7月19日 2023年7月19日</p> <p>2024年2月8日 (審査会) 2024年2月10日 (表彰式) 2024年1月27日</p> <p>2023年11月19日</p> <p>2023年7月30日</p>
刊行活動	<p>支部年報第43号発刊 東北支部研究報告集第86号計画系・構造系ならびに第9回建築デザイン発表会梗概集 (CD-ROM) 発刊 東北建築作品集 (第33号) 発行</p>	<p>2023年5月13日 2023年6月25日</p> <p>2023年10月7日</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	<p>2023年度日本建築学会支部共通事業 「建築基礎構造設計例集」改訂講習会</p>	<p>2024年2月7日 ハーネル仙台</p>
展示会	<p>・全国大学・高専卒業設計展示会巡回展示会 山形市、郡山市、八戸市、仙台市</p>	<p>2023年6月~11月</p>
審査会	<p>・2023年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ:「建築と環境」 ・日本建築学会「作品選集2024」東北支部選考部会</p>	<p>2023年7月10日 オンライン (Zoom)</p> <p>2023年6月~8月 オンライン (Zoom)</p>

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日
<b>2024 年度事業計画（案）</b>	

### 〈事務の部〉

総 会	1. 2023 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2024 年度事業計画・予算案	2024 年 6 月 22 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (7)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1) 司法支援建築会議東北支部運営委員会 (3)、男女共同参画事業 (1)	( ) は回数
代議員半数改選	(留任) 小野田泰明、長谷川兼一 (新任) 小林 光、堀 則男	2023 年 4 月～2025 年 3 月 2024 年 4 月～2026 年 3 月
支部長改選	(退任) 速水清孝 (新任) 松本真一	2022 年 6 月～2024 年 5 月 2024 年 6 月～2026 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 安部信行、市岡綾子、大野 晋、込山敦司、安田直民、八十川淳 (留任) 栗原広佑、権代由範、齋藤俊克、笹渕優樹、柴山明寛、田中暁之、中村琢巳 (新任) 後藤伴延、櫻井真人、錦織真也、野口巧巳、福士 讓、堀川真之、山本和恵	2022 年 6 月～2024 年 5 月 2023 年 6 月～2025 年 5 月 2024 年 6 月～2026 年 6 月
支部監事	鈴木 博之、佃 悠	2023 年 6 月～2025 年 5 月

### 〈支部事業〉

研究委員会	<p>[部会名] [部会長] [研究テーマ]</p> <p>構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 石山 智 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 建築史・意匠 : 大沼正寛 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 許 雷 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 西脇智哉 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援</p> <p>津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 (期限付) : 田中礼治</p>	
支部研究補助費による研究	研究題目 : 自然災害からの復興における「みやぎボイス」の活用に関する実践的研究 研究部会 : 建築デザイン教育部会 (研究代表者 櫻井一弥)	2024 年 4 月～2025 年 3 月
支部研究報告会	2024 年度第 87 回東北支部研究報告会 研究報告集第 87 号計画系・構造系刊行 発表題目 79 題	2024 年 6 月 22 日・23 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター
建築デザイン発表会	2024 年度第 10 回東北支部建築デザイン発表会 発表題目 5 題	2024 年 6 月 22 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第 34 回「東北建築作品発表会」の開催 3) 第 45 回「東北建築賞」の選考	2024 年 10 月 2024 年 10 月 5 日 2024 年 10 月～2025 年 1 月

	<p>4) みちのくの風 2024 岩手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 87 回支部研究報告会</li> <li>・第 10 回建築デザイン発表会</li> <li>・会長記念講演会</li> <li>・司法支援建築会議東北支部第 4 回講演会</li> <li>・第 44 回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会</li> </ul> <p>2. 支部共催</p> <p>親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城会場 1 件</li> <li>・秋田会場 2 件</li> <li>・福島会場 1 件</li> </ul> <p>3. 男女共同参画事業</p>	<p>2024 年 6 月 22 日・23 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター</p> <p>2024 年 7 月～2025 年 2 月</p> <p>2024 年 4 月～2025 年 3 月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 日本建築学会東北支部功労者表彰</p> <p>2. 終身正会員の紹介</p> <p>3. 日本建築学会設計競技部入選者の紹介</p> <p>4. 第 44 回東北建築賞表彰式</p>	<p>2024 年 6 月 22 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹事会</li> <li>・全員協議会</li> <li>・支所主催講演会</li> </ul> <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 53 回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール</li> </ul> <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 48 回盛岡市都市景観シンポジウム後援</li> </ul> <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学協会ワークショップ</li> </ul> <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親と子の都市と建築講座：福島市</li> <li>・後援事業</li> </ul>	<p>2024 年 6 月</p> <p>2025 年 2 月</p> <p>2024 年 11 月</p> <p>2024 年 11 月</p> <p>2024 年 7 月</p>
刊行活動	<p>支部年報第 44 号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第 87 号計画系・構造系（第 10 回東北支部建築デザイン発表会込）CD-ROM 発刊</p> <p>東北建築作品集（第 34 号）発行</p>	<p>2024 年 5 月 30 日</p> <p>2024 年 6 月 22 日</p> <p>2024 年 10 月 5 日</p>

### 〈支部共通事業〉

講習会	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	2024 年 12 月
展示会	全国大学・高専卒業設計展示会 山形市、郡山市、八戸市、仙台市、由利本荘市で開催	2024 年 6 月～11 月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度支部共通事業日本建築学会設計競技課題「コモンズの再構築—建築、ランドスケープがもたらす自己変容」</li> <li>・日本建築学会「作品選集 2025」東北支部選考部会</li> </ul>	<p>2024 年 7 月 オンライン (Zoom)</p> <p>2023 年 6 月～9 月 支部会議室、オンライン (Zoom)</p>

## 法人・賛助会員

(株)阿部重組	(株)昴設計
阿部建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+ 地域環境計画研究室
(株)関・空間設計	
鹿島建設(株)	(株)東北開発コンサルタント
(株)久米設計	東日本旅客鉄道(株)
(株)熊谷組	(株)I N A新建築研究所
清水建設(株)	(株)ティ・アール建築アトリエ
仙建工業(株)	日本原燃(株)
大成建設(株)	(株)楠山設計
(株)竹中工務店	クレハ錦建設(株)
戸田建設(株)	(株)工藤組
(株)ユアテック	仙台コンクリート試験センター(株)
西松建設(株)	東双不動産管理(株)
(株)安藤・間	アイジー工業(株)
堀江工業(株)	東北電力(株)
(株)ピーエス三菱東北支店	日本大学図書館工学部分館
(株)三菱地所設計	八戸工業大学
(株)山下設計	一般社団法人東北空気調和衛生工事業協会
(株)梓設計	東北芸術工科大学
東日本興業(株)	山形県立図書館

---

一般社団法人 日本建築学会東北支部

支部年報第 44 号  
2024 年 5 月 30 日発行

編集責任者（図書情報担当常議員） 栗原 広佑

---